

感染症定期報告の報告状況(2007/1/1~2007/3/31)

資料No.3-1

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
1	2007/01/11	60790	ベネシス	人ハプトグロビン	人ハプトグロビン	人血液	非献血:米国、献血:日本	有効成分	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 367: 2068-2074	1996年7月から2004年6月までに11人のクールー病患者を確認したが、全員がSouth Foreに住んでいた。患者は全員、1950年代後半に食人習慣が中止される前に生れていた。推定された潜伏期間は、最小で34年から41年の範囲であったが、男性における潜伏期間は39年から56年の範囲と考えられ、更に最長で7年長かった可能性もある。プリオン遺伝子の分析によって、殆どのクールー病の患者は、潜伏期間の延長とプリオン病への耐性に関係する遺伝子型であるコドン129がヘテロ接合体であることが明らかとなった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 313: 92-94	TSEの前兆期に、スクレイピーに感染させたハムスターの血液中のPrPScをPMCA (protein misfolding cyclic amplification)法を用いて生化学的に検出した。潜伏期間の初期には、おそらく血液中に検出されたPrPScは未精製のプリオンの複製に由来していると思われる。感染しているが発症していない動物の血液中のプリオンを生化学的に検出することができるということは、TSEの非侵襲的早期診断を期待させる。
												パルボウイルス	Thromb Haemost 2004; 92: 838-845	今まで、凝固因子製剤のパルボウイルスB19遺伝子型2による汚染は報告されていないので、市販されている21製剤の202ロットを、パルボウイルスB19遺伝子型1と遺伝子型2のDNAについてPCRにより調べた。遺伝子型1のDNAが、現在投与されているロットの77/181(42.5%)に、1980年代初めまで使用されたロットの17/21(81%)に検出された。遺伝子型2のDNAは、5/202(2.5%)に見出され、その全てが遺伝子型1のDNAに汚染されていた。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	古典的CJDの潜伏期間は38.5年であり、vCJDの潜伏期間も非常に長いことが示唆されている。また、未確認ではあるが恐ろしくかなりの数の血液ドナーが、欧州におけるBSE激増中にフランスで感染した可能性がある。これらのことから、FDAは1980年以降フランスで血液又は血液成分の輸血を受けた者からの供血を無期限に停止するという予防策の導入をガイダンス案として発表した。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用精選	感染症(PT)	出典	概要
												E型肝炎	肝臓 2006; 47: 384-391	わが国のE型肝炎の実態を明らかにする目的で、全国から総数254例のE型肝炎ウイルス感染例を集め、これを解析した。その結果、以下の知見を得た。1)HEVは全国に浸透している。2)感染者の多くは中高年(平均年齢約50歳)で、男性に多い。3)我国に土着のHEVの遺伝型は3型と4型である。4)年齢と肝炎重症度に相関がある。5)遺伝型は4型が頭在比率も重症化率も高い。6)発症時期が無季節性である。7)感染経路は、動物由来食感染が約30%、輸入感染が8%、輸血感染が2%、不明が約60%であった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Future Virol 2006; 1: 659-674	血液製剤の製造工程におけるプリオンの除去に関する総説である。プリオン除去のための個々の製造工程は、実際の製造条件を実験室での条件にスケールダウンさせ、確立されているスクレイピー株をモデル系として用いて通常は評価されている。しかしながら、血液中のプリオンタンパクの存在形態が不明なので、評価実験のためのスパイク材料としてのプリオンの調製方法は注意深く考慮しなければならない。現在のところ、エタノール分画、PEG分画、カラムクロマトグラフィー、ウイルス除去膜およびデブスフィルターでの濾過が有効とされている。
												ウイルス感染	J Infect Dis 2006; 194: 1276-1282	ヒトボカウイルス感染の疫学的プロフィールおよび臨床的特徴を調べるため、2歳未満の小児のヒトボカウイルスを調査した。直接的免疫蛍光試験でRSV(respiratory syncytial virus)、パラインフルエンザウイルス(1-3型)、インフルエンザAおよびB、並びにアデノウイルスが陰性であった425名中22名(5.2%)がPCRでヒトボカウイルス陽性であり、無症候であった96名では陽性者はゼロであった。この試験期間中、2つの異なる遺伝型が見られた。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS Pathogens 2006; 2: 956-963	最近、大規模なスクリーニングによって、従来とは異なるPrPresがウシにおいて発見された。これらもまた別のプリオン株を代表するかを調べるため、H型と呼ばれる高分子量のウシの単離体を、ウシまたはヒツジのPrPを発現するトランスジェニックマウスに接種した。全てのマウスは神経学的症状を呈し、この株に感染し、感染性プリオンの新規の株であることが示された。この病原体は、BSE病原体およびヒツジスクレイピー病原体とは明らかに異なる特有の神経病理学的特徴を示した。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用指針	感染症(PT)	出典	概要
												異型クローンフェルト・ヤコブ病	FDA/CBER 2006年10月15日 FDA/TSEAC Meeting 2006年12月15日	FDAは、米国で認可されたヒト血漿由来第VIII凝固因子製剤 (pdFVIII) の使用に係る潜在的vCJDリスク評価草案を作成した。FDAの評価モデルの結果は、血友病Aおよびフォンウィルブランド病患者に使用されるpdFVIII製剤の、vCJD感染リスクは非常に低い、ゼロではないかもしれないことを示唆した。またTSEAC (TSE Advisory Committee) は、pdFVIII製品中のTSE除去の適切な閾値について議論した。TSE除去レベルにより、vCJD感染リスクは大きく変動することが示された。
2	2007/01/12	60791	ヤンセンファーマ	ムロモナブ-CD3	ウマ血清	ウマ血液		製造工程	無	無	無			
3	2007/01/12	60792	ヤンセンファーマ	ムロモナブ-CD3	ムロモナブ-CD3	マウス腹水		有効成分	無	無	無			
4	2007/01/12	60793	ヤンセンファーマ	ムロモナブ-CD3	ウシ胎仔血清	ウシ血液	アメリカ合衆国またはカナダ	製造工程	無	無	無			
5	2007/01/12	60802	第一ラジオアイソトープ研究所	テクネチウム大凝集人血清アルブミン(99mTc)	テクネチウム大凝集人血清アルブミン(99mTc)	ヒト血液	米国	有効成分	有	無	無	結核	WHO 2006年9月5日	WHOは病原性が強く、致死性の結核の世界的な拡大防止の強化および措置を求めた。6クラスの第2選択薬の3クラス以上に耐性のある多剤耐性結核(XDR-TB)は世界の様々な地域で確認されており、特に旧ソビエト連邦やアジアで多い。また南アフリカではXDR-TBでHIV陽性である患者群で極めて高い死亡率が確認されている。
6	2007/01/15	60803	科薬	トロンビン	トロンビン	ウシ血液	ニュージーランド、オーストラリア、アルゼンチン	有効成分	無	無	無			
7	2007/01/15	60804	科薬	トロンビン	トロンボプラステン	ブタ肺	デンマーク	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
8	2007/01/15	60805	バイオジェン・アイデック・ジャパン	インターフェロン ベータ-1a(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ胎児血液	米国	製造工程	有	無	無	BSE	Canadian Food Inspection Agency 2006年8月24日	カナダ食品検査局は、2006年7月13日にBSEと診断されたAlbertaの50月齢の乳牛に関する疫学的調査を行った。このウシはカナダで7頭目のBSE牛である。問題の牛のどの部分も、ヒトおよび動物の食物システムには含まれていない。同じ農場で出生または飼育されていた172頭についても追跡調査され、生存が確認されたウシは処分された。飼料の調査も行われた。ウシの飼料を生産する工場では、禁止物質を含む非反芻動物用の飼料が生産されていたことがあり、汚染された可能性があった。
9	2007/01/15	60806	バイオジェン・アイデック・ジャパン	インターフェロン ベータ-1a(遺伝子組換え)	ウシトランスフェリン	ウシ血液	米国、カナダ	製造工程	有	無	無	BSE	Canadian Food Inspection Agency 2006年8月24日	60805に同じ
10	2007/01/15	60807	バイオジェン・アイデック・ジャパン	インターフェロン ベータ-1a(遺伝子組換え)	ウシインスリン	ウシ膵臓抽出物	米国、カナダ	製造工程	有	無	無	BSE	Canadian Food Inspection Agency 2006年8月24日	60805に同じ
11	2007/01/19	60808	味の素	ヘパリンナトリウム注射液	ヘパリンナトリウム	健康なブタの腸粘膜	ブラジル	有効成分	有	無	無	エルシニア感染	J Med Microbiol 2006; 55: 747-749	散発性エルシニア症の感染経路については、ブタと人との関連性は証明されていない。1995年から2003年にかけて、フィンランドとドイツで下痢のヒト282名の便およびブタ534頭の糞などから得た検体から単離された合計816株のY. enterocolitica 4/O:3を、制限酵素を使ったPFGEで関連性を検討した。その結果、両国共、ヒト由来株のほとんどはブタ由来株と区別ができず、一方、遺伝子型の大部分(182例中178例)は両国で異なっていた。ブタがヒトエルシニア症の重要な起源であることが示唆された。
												ブドウ球菌感染	Ned Tijdschr Geneesk 2006; 150: 1710-1712	最近、オランダで養豚業者がしばしばMRSAを保有することが報告されている。これらのMRSA株はブタでみられるMRSA株と関係がある。ケースコントロール試験の結果、ウシ飼育業者もMRSAキャリアである危険性が明らかとなった。養豚業者が入院する場合は、MRSA陰性と分かるまで、隔離するように勧告する。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文獻	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												旋毛虫症	Vet Parasitol 2006; 140: 177-180	イタリアの地中海諸島Sardiniaで、初めて旋毛虫症が発生した。アウトブレイクは2005年に2つの村で起こり、同じブタから作った生のソーセージを食べたヒト11名が感染した。11名全員が旋毛虫症の症状を示し、摂食後48日以内に抗体陽転した。病原体はTrichinella britoviであった。
12	2007/01/22	60809	三菱ウェルファーマ	アプロチニン製剤	アプロチニン液	ウシ肺	ウルグアイ、ニュージーランド	有効成分	無	無	無			
13	2007/01/24	60810	日本ケミカルリサーチ	注射用ミリモスチム	ミリモスチム	ヒト尿	中国、台湾	有効成分	無	無	無			
14	2007/01/24	60811	富士製薬工業	ヘパリンナトリウム注射液	ヘパリンナトリウム	ブタの腸粘膜	中国、ブラジル	有効成分	無	無	無			
15	2007/01/24	60812	ZLBベアリング	ペプシン処理人免疫グロブリンG	ペプシン処理人免疫グロブリンG	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	有効成分	有	有	無	HHV-8感染	N Engl J Med 2006; 355: 1331-1338	2000年12月から2001年10月に輸血を受けたウガンダのKampalaの患者1811例のうち、輸血前にヒトヘルペスウイルス8型(HHV-8)血清陰性であった患者991例について追跡調査を行った。そのうち43%(425例)にHHV-8血清陽性血が輸血された。991例中41例にHHV-8セロコンバージョンが起こったが、セロコンバージョンのリスクは陽性血を輸血された患者の方が陰性血を輸血された患者より有意に高かった。
												ウイルス感染	Transfusion 2006; 46: 1352-1359	全血輸血により、サルfoamyウイルス(SFV)感染が起こるかをアカゲザルを用いて調べた。自然感染ザル2匹の全血を、各々、レトロウイルスを持たないサル2匹に輸血したところ、1匹のドナーからのレシピエントでは感染し、もう1匹のドナーからのレシピエントは感染しなかった。ヒトでのSFV輸血伝播の可能性が示された。
16	2007/01/24	60813	ZLBベアリング	ペプシン処理人免疫グロブリンG	ペプシン	ブタの胃	米国	製造工程	無	無	無			
17	2007/01/24	60814	ZLBベアリング	乾燥濃縮人アンチトロンビンIII	乾燥濃縮人アンチトロンビンIII	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	有効成分	有	有	無	HHV-8感染	N Engl J Med 2006; 355: 1331-1338	60812に同じ
												ウイルス感染	Transfusion 2006; 46: 1352-1359	60812に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用指値	感染症(PT)	出典	概要
18	2007/01/25	60815	日本オルガノン	ダナバロイドナトリウム	ダナバロイドナトリウム	ブタの小腸粘膜	ベルギー、ドイツ、フランス、スペイン、オーストリア、オランダ	有効成分	無	無	無			
19	2007/01/25	60816	日本オルガノン	①下垂体性性腺刺激ホルモン ②胎盤性性腺刺激ホルモン	①下垂体性性腺刺激ホルモン②胎盤性性腺刺激ホルモン	①更年期婦人尿②婦人尿	①オランダ ②ブラジル	有効成分	有	無	無	デング熱	ProMED-mail20060730.2110	ブラジルのRioでは、2006年7月17日現在、デング熱患者数は26712例に達し、2005年の10倍以上となった。この内、36例が出血熱で、5例が死亡した。Sao Paulo州Ribeirao Pretoではデング蚊蔓延指数が2005年の同時期に比べ、35%増加し、すでにデング熱確定患者は2182例となった。
												デング熱	Public Health Agency of Canada 2006年10月13日	カナダ公衆衛生局は世界中のデング熱発生状況の監視を続け、旅行者に注意を呼びかけている。ブラジルでは2006年最初の30週で234068例、ドミニカ共和国では36週で3528例、エルサルバドルでは37週で17256例などと、2005年の総数より増加している。
												ウイルス感染	ProMED-mail20061014.2953	フランスCDCであるInVSによると、住民760000人のLa Reunionで、2005年3月から2006年9月末までに266000例のチクングンヤ患者が推定された。チクングンヤは246の重症例で証明されており、確定例の27%が死亡した。また、母子感染が44例報告された。
20	2007/01/25	60817	化学及血清療法研究所	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	血液凝固第Ⅷ因子	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	古典的CJDの潜伏期間は38.5年であり、vCJDの潜伏期間も非常に長いことが示唆されている。また、未確認ではあるが恐らくかなりの数の血液ドナーが、欧州におけるBSE激増中にフランスで感染した可能性がある。これらのことから、FDAは1980年以降フランスで血液又は血液成分の輸血を受けた者からの供血を無期限に停止するという予防策の導入をガイダンス案として発表した。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
21	2007/01/26	60818	日本製薬	乾燥人血液凝固第Ⅸ因子複合体	血液凝固第Ⅸ因子複合体	人血液	日本	有効成分	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	古典的CJDの潜伏期間は38.5年であり、vCJDの潜伏期間も非常に長いことが示唆されている。また、未確認ではあるが恐らくかなりの数の血液ドナーが、欧州におけるBSE激増中にフランスで感染した可能性がある。これらのことから、FDAは1980年以降フランスで血液又は血液成分の輸血を受けた者からの供血を無期限に停止するという予防策の導入をガイダンス案として発表した。
												HIV	日刊薬業 第12105号 平成18年9月6日	日本人初のHIV-2感染者が確定された。男性は過去に西アフリカに渡航し、現地で輸血した経験があるため、これが感染経路と見られている。厚生省は、2型の検査も確実に行い、検査漏れがないよう、各都道府県に通知した。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省 平成18年8月24日	平成18年8月23日に開催された薬事・食品衛生審議会血液事業部会安全技術調査会において、ヒト胎盤エキス(ブラセンタ)注射剤使用者に対する献血制限措置を日本赤十字社が実施することが了承された。
												マラリア	AABB Weekly Report 2006; 12(32): 10	2006年9月8日付けのKorea Timesによると、交通事故後に輸血を受け、その後マラリアと診断された患者が、疑わしい血液の流通を防ぐことができなかった韓国赤十字を批判している。韓国赤十字は状況を知りながら、何の行動も起こさず、その結果、不適切な血液製品が流通し続けたとのことである。輸血によるマラリア感染で既に1名の患者が死亡している。
												HHV-8感染	N Engl J Med 2006; 355: 1331-1338	2000年12月から2001年10月に輸血を受けたウガンダのKampalaの患者1811例のうち、輸血前にヒトヘルペスウイルス8型(HHV-8)血清陰性であった患者991例について追跡調査を行った。そのうち43%(425例)にHHV-8血清陽性血が輸血された。991例中41例にHHV-8セロコンバージョンが起こったが、セロコンバージョンのリスクは陽性血を輸血された患者の方が陰性血を輸血された患者より有意に高かった。
22	2007/01/26	60819	ゼリア新薬工業	結核菌熱水抽出物	全卵液	全卵液	日本	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザ	BBC News online 2006年6月23日	WHOは、トリインフルエンザの限定的なヒト-ヒト伝播が5月にインドネシアの家族で発生したと思われると発表した。しかし今回の事例はトリインフルエンザの拡大における大きな変化を示すものではないと述べた。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 精量	感染症(PT)	出典	概要
23	2007/01/26	60820	ゼリア新薬工業	結核菌熱水抽出物	結核菌熱水抽出物	Z-100原液	日本	有効成分	無	無	無			
24	2007/01/26	60821	グラクソ・スミスクライン	A型ボツリヌス毒素	人血清アルブミン	人血液	米国	添加物	無	無	無			
25	2007/01/26	60822	グラクソ・スミスクライン	A型ボツリヌス毒素	ウシ(心臓、血液、乳、骨格筋、脾臓)	ウシ(心臓、血液、乳、骨格筋、脾臓)	米国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、アルゼンチン、ブラジル、ウルグアイ	製造工程	無	無	無			
26	2007/01/26	60823	グラクソ・スミスクライン	A型ボツリヌス毒素	ヒツジ(血液)	ヒツジ(血液)	米国、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
27	2007/01/26	60824	グラクソ・スミスクライン	A型ボツリヌス毒素	A型ボツリヌス毒素	A型ボツリヌス菌 (<i>Clostridium botulinum</i>)	米国	有効成分	無	無	無			
28	2007/01/26	60825	日本メジフィジックス	ガラクトシル人血清アルブミンジエチレントリアミン五酢酸テクネチウム(99mTc)	ガラクトシル人血清アルブミンジエチレントリアミン五酢酸テクネチウム(99mTc)	生物学的製剤基準人血清アルブミン	日本	有効成分	無	無	無			
29	2007/01/29	60826	ノボルディスクファーマ	エプタコグ アルファ(活性型)(遺伝子組換え)	ブタ脾臓由来トリプシン	ブタ脾臓(抽出物)	不明	製造工程	無	無	無			
30	2007/01/29	60827	ノボルディスクファーマ	エプタコグ アルファ(活性型)(遺伝子組換え)	ウシ新生仔血清	ウシ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文獻	症例	適正 使用 精査	感染症(PT)	出典	概要
31	2007/01/29	60828	ノボノル ディスク ファーマ	エプタコグ アルファ(活性型)(遺伝子組換え)	エプタコグ アルファ(活 性型)(遺伝 子組換え)	エプタコグ ア ルファ(活性 型)(遺伝子 組換え)	該当しない	有効成分	無	無	無			
32	2007/01/29	60829	ノボノル ディスク ファーマ	エプタコグ アルファ(活性型)(遺伝子組換え)	ウシ胎仔血 清	ウシ血液	ニュージ ーランド、オ ーストラリ ア、米 国及びカ ナダ	製造工程	無	無	無			
33	2007/01/29	60830	アボット ・ ジャパン	パリビズマブ(遺伝子組換え)	パリビズマブ (遺伝子組 換え)		ドイツ	有効成分	無	無	無			
34	2007/01/29	60831	アボット ・ ジャパン	パリビズマブ(遺伝子組換え)	マウスミエ ローマ細胞	マウス培養細 胞株	米国	製造工程	無	無	無			
35	2007/01/29	60832	アボット ・ ジャパン	パリビズマブ(遺伝子組換え)	トランスフェ リン	ウシ血液	ニュージ ーランド	製造工程	無	無	無			
36	2007/01/29	60833	アボット ・ ジャパン	パリビズマブ(遺伝子組換え)	リボプロテイン	ウシ血液	オーストラ リア、ニュー ジーランド	製造工程	無	無	無			
37	2007/01/29	60834	アボット ・ ジャパン	パリビズマブ(遺伝子組換え)	ウシ血清ア ルブミン	ウシ血液	ニュージ ーランド	製造工程	無	無	無			
38	2007/01/29	60835	アボット ・ ジャパン	パリビズマブ(遺伝子組換え)	濃縮リビッド	羊毛	オーストラ リア、ニュー ジーランド	製造工程	無	無	無			
39	2007/01/29	60836	バクスター	加熱人血漿たん白	人血清アル ブミン	人血漿	米国	有効成分	無	無	無			
40	2007/01/29	60837	バクスター	人血清アルブミン	ヘパリンナ トリウム	ブタ腸	中国	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用指置	感染症(PT)	出典	概要
41	2007/01/29	60838	バクスター	人血清アルブミン	人血清アルブミン	人血漿	米国	有効成分	無	無	無			
42	2007/01/29	60839	バクスター	活性化プロトロンビン複合体濃縮製剤	乾燥人血液凝固第Ⅳ因子阻害物質補正活性複合体	人血漿	米国	有効成分	無	無	無			
43	2007/01/29	60840	バクスター	活性化プロトロンビン複合体濃縮製剤	ヘパリンナトリウム	ブタ腸	該当なし	添加物	無	無	無			
44	2007/01/29	60841	バクスター	ルリオクトコグアルファ(遺伝子組換え)	培養補助剤(抗第Ⅳ因子モノクローナル抗体製造用-1)	ウシ血液	米国	製造工程	無	無	無			
45	2007/01/29	60842	バクスター	ルリオクトコグアルファ(遺伝子組換え)	アプロチニン	ウシ肺	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
46	2007/01/29	60843	バクスター	ルリオクトコグアルファ(遺伝子組換え)	培養補助剤(抗第Ⅳ因子モノクローナル抗体製造用-2)	ウシ肝臓	米国又はカナダ	製造工程	無	無	無			
47	2007/01/29	60844	バクスター	ルリオクトコグアルファ(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清(抗第Ⅳ因子モノクローナル抗体製造用)	ウシ血液	オーストラリア	製造工程	無	無	無			
48	2007/01/29	60845	バクスター	ルリオクトコグアルファ(遺伝子組換え)	ルリオクトコグアルファ(遺伝子組換え)	遺伝子組換えチャイニーズハムスター卵巢細胞株	該当なし	有効成分	無	無	無			
49	2007/01/29	60846	バクスター	ルリオクトコグアルファ(遺伝子組換え)	ウシ血清アルブミン	ウシ血液	米国	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
50	2007/01/29	60847	バクスター	ルリオクトコグアルファ(遺伝子組換え)	人血清アルブミン	人血漿	米国	添加物	無	無	無			
51	2007/01/29	60848	バクスター	ルリオクトコグアルファ(遺伝子組換え)	インスリン (抗第Ⅷ因子モノクローナル抗体製造用)	ウシ膵臓	米国	製造工程	無	無	無			
52	2007/01/30	60849	大塚製薬	インターフェロン アルファ(BALL-1)	インターフェロン アルファ(BALL-1)	ヒトリンパ芽球細胞株	日本	有効成分	無	無	有			
53	2007/01/30	60850	大塚製薬	インターフェロン アルファ(BALL-1)	ウシ胎仔血清	ウシ血液	アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	有			
54	2007/01/30	60851	大塚製薬	インターフェロン アルファ(BALL-1)	ウシ乳由来カゼイン(センダイウイルスのポリペプトン)	ウシ乳	中国、ポーランド、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	有			
55	2007/01/30	60852	大塚製薬	インターフェロン アルファ(BALL-1)	抗IFN- α モノクローナル抗体	マウスハイブリドーマ	イギリス	製造工程	無	無	有			
56	2007/01/30	60853	大塚製薬	インターフェロン アルファ(BALL-1)	抗ハムスター胸腺細胞ウサギ抗血清	ウサギ血液	アメリカ	製造工程	無	無	有			
57	2007/01/30	60854	大塚製薬	インターフェロン アルファ(BALL-1)	ふ化鶏卵(センダイウイルスを増殖)	鶏卵	日本	製造工程	無	無	有			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
58	2007/01/30	60855	大塚製薬	インターフェロン アルファ(BALL-1)	ハムスター(ヒトリンパ芽球細胞を皮下で増殖)	ハムスター	日本	製造工程	無	無	有			
59	2007/01/30	60856	大塚製薬	インターフェロン アルファ(BALL-1)	ブタ由来酵素(センダイウイルスのポリペプトン)	ブタ臓腑	日本	製造工程	無	無	有			
60	2007/02/02	60857	アステラス製薬	パミテプラゼ(遺伝子組換え)	CHO細胞	チャイニーズハムスター卵巣細胞		製造工程	無	無	無			
61	2007/02/02	60858	アステラス製薬	パミテプラゼ(遺伝子組換え)	トランスフェリン	ウシ血液	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail20060623.1741	2006年6月22日にオランダ保健当局は、オランダで2例目の狂牛病患者を確定したと発表した。この患者は汚染した肉製品を食べたために感染したと思われるが、詳細は明らかにされていない。1例目は2005年にvCJDで死亡した26歳の女性である。
												炭疽	ProMED-mail20061109.3216	ロシアのNorth Ossetia-Alaniaで炭疽により、ヒト2名が死亡した。感染源を調査中である。1名は肉の販売に従事していた。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail20061205.3431	米国で3例目のvCJD症例が確定された。サウジアラビアで生まれ育った若年成人で、2005年後半から米国に住んでいる。2006年11月下旬にアデノイドおよび脳生検により確定診断された。この患者に輸血歴やヨーロッパ訪問歴はなく、子供の頃にサウジアラビアでBSE感染牛製品を摂取したことが原因と思われる。この患者に供血歴はなく、公衆衛生的調査により、米国住民への伝播の危険はないと同定された。
62	2007/02/02	60859	アステラス製薬	パミテプラゼ(遺伝子組換え)	ウシ血清アルブミン	ウシ血液	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail20060623.1741	60858に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文獻	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												炭疽	ProMED-mail20061109.3216	60858に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail20061205.3431	60858に同じ
63	2007/02/02	60860	アステラス製薬	パミテプラーゼ(遺伝子組換え)	インスリン	ウシ膵臓	オーストラリア、カナダ、ニュージーランド、米国	製造工程	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail20060823.1741	60858に同じ
												炭疽	ProMED-mail20061109.3216	60858に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail20061205.3431	60858に同じ
64	2007/02/07	60861	大日本住友製薬	コンドロイチン硫酸鉄	コンドロイチン硫酸ナトリウム	ウシの軟骨(気管)	米国、メキシコ	添加物	無	無	無			
65	2007/02/07	60862	あすか製薬	日局カリジノゲナーゼ	カリジノゲナーゼ	ブタ降膜	中国	有効成分	無	無	無			
66	2007/02/07	60863	あすか製薬	日局胎盤性性腺刺激ホルモン	胎盤性性腺刺激ホルモン	ヒト尿	中国、ブラジル	有効成分	無	無	無			
67	2007/02/07	60864	日本ケミカルリサーチ	ミリモスチム	ヒト血清アルブミン	ヒト血液	日本	添加物	有	無	無	HHV-8感染	N Engl J Med 2006; 355: 1331-1338	2000年12月から2001年10月に輸血を受けたウガンダのKampalaの患者1811例のうち、輸血前にヒトヘルペスウイルス8型(HHV-8)血清陰性であった患者991例について追跡調査を行った。そのうち43%(425例)にHHV-8血清陽性血が輸血された。991例中41例にHHV-8セロコンバージョンが起こったが、セロコンバージョンのリスクは陽性血を輸血された患者の方が陰性血を輸血された患者より有意に高かった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												クロストリジウム感染	第55回日本感染症学会東日本地方会総会 2006年10月26-27日 016	胸部打撲後、心肺停止、混合性アシドーシス、胸部筋組織の破壊像を伴う著明な気腫などを呈し、死亡した58歳男性の、死亡直前に採取された皮下気腫穿刺液を調べたところ、多数の偏性嫌気性有芽胞グラム陽性桿菌が検出された。RNA遺伝子解析の結果、Clostridium chauvoeiと同定された。本菌は複数の同定キットでは明らかにできなかった。本菌は獣医学領域の病原菌として知られているが、ヒト感染症からの分離は初めてである。
68	2007/02/07	60865	興和創薬	下垂体性性腺刺激ホルモン	下垂体性性腺刺激ホルモン	ヒト(閉経期婦人)尿	中国	有効成分	無	無	無			
69	2007/02/08	60866	大日本住友製薬	酢酸ソマトレリン	人血清アルブミン	人血液	米国	添加物	無	無	無			
70	2007/02/09	60867	アボット・ジャパン	レビパリンナトリウム	レビパリンナトリウム	ブタ小腸粘膜ヘパリン	中国	有効成分	無	無	無			
71	2007/02/14	60868	興和	チソキナーゼ	チソキナーゼ	ヒト胎児の肺に由来する正常二倍体線維芽細胞	米国	有効成分	無	無	無			
72	2007/02/14	60869	興和	チソキナーゼ	人血清アルブミン	ヒト血清	日本	添加物	無	無	無			
73	2007/02/14	60870	興和	チソキナーゼ	ウシの血清	ウシ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
74	2007/02/14	60871	興和	チソキナーゼ	ペプトン	ブタの胃	米国	製造工程	無	無	無			
75	2007/02/14	60872	興和	チソキナーゼ	抗チソキナーゼモノクローナル抗体	マウスミエロマ細胞及びマウス抗チソキナーゼ抗体産生脾臓細胞から作製したハイブリドーマ	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
76	2007/02/14	60873	第一ラジ オアイソ トープ研究 所	ヨウ化人血清アルブミン(131I)	ヨウ化人血 清アルブミン (131I)	ヒト血液	日本	有効成分	無	無	無			
77	2007/02/15	60874	中外製薬	エポエチン ベータ(遺伝子組換え)	ウシ血清ア ルブミン (BSA)	ウシ血液	米国、カナ ダ	製造工程	有	無	無	BSE	FDA News; P07-04, 2007年1月11日	FDAはBSEセーフガードとして医薬品や医療機器で、特定のウシ原料を禁止することを提案した。禁止される原料は、30月齢以上のウシの脳、頭蓋骨、眼および脊髄、全てのウシの扁桃腺および小腸の一部、ヘタリウシの全ての部位、検査を合格していないウシの全ての部位などである。
												BSE	ProMED- mail20061227.3621	カナダAlbertaで2006年8月9日に肉用牝牛が短期間の神経学的疾患の後、死亡したが、8月24日にBSEと確定診断された。カナダにおける8例目のBSE牛である。このウシは8から10歳と推定された。出生に関する追跡調査が行われたが、特定することはできなかった。
												リケッチア症	ProMED- mail20061130.3391	アイオワ大学感染症科は最近8ヶ月で8例のQ熱患者を診察した。州保健局は2006年だけで他に11例を報告している。過去3年間で4例であったことに比べると、発生率もしくは報告数が有意に増加している。アイオワ南東部またはイリノイ北西部に住んでいる8例の内2例はウシ、ヤギまたはウマとの明らかな接触歴があり、4例は動物との希薄な接触歴があった。
78	2007/02/15	60875	中外製薬	エポエチン ベータ(遺伝子組換え)	ヒトインスリ ン(遺伝子組 換え)	ブタ膵臓	米国、カナ ダ、デン マーク、英 国、ドイツ、 オランダ、ポ ルトガル、ベ ルギー、フラ ンス、アイル ランド、スペ イン、ハンガ リー、韓国	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
79	2007/02/15	60876	中外製薬	ストレプトコックス・ピオゲネス(A群3型) Su株ペニシリン処理凍結乾燥粉末	Bacto Todd Hewitt Broth	ウシ心臓、骨格筋、骨髄、脂肪組織、結合組織、乳、ブタ心臓、脾臓、胃	ウシ:米国、オーストラリア、ニュージーランド、ブタ:米国、イタリア、カナダ	製造工程	有	無	無	BSE	FDA News; P07-04, 2007年1月11日	60874に同じ
												BSE	ProMED-mail20061227.3621	60874に同じ
												リケッチア症	ProMED-mail20061130.3391	60874に同じ
80	2007/02/15	60877	中外製薬	ストレプトコックス・ピオゲネス(A群3型) Su株ペニシリン処理凍結乾燥粉末	スキムミルク	ウシ乳	米国	製造工程	有	無	無	BSE	FDA News; P07-04, 2007年1月11日	60874に同じ
												BSE	ProMED-mail20061227.3621	60874に同じ
												リケッチア症	ProMED-mail20061130.3391	60874に同じ
81	2007/02/15	60878	中外製薬	ストレプトコックス・ピオゲネス(A群3型) Su株ペニシリン処理凍結乾燥粉末	ベプトンN粉末	ウシ乳	ニュージーランド	製造工程	有	無	無	BSE	FDA News; P07-04, 2007年1月11日	60874に同じ
												BSE	ProMED-mail20061227.3621	60874に同じ
												リケッチア症	ProMED-mail20061130.3391	60874に同じ
82	2007/02/15	60879	中外製薬	ストレプトコックス・ピオゲネス(A群3型) Su株ペニシリン処理凍結乾燥粉末	ストレプトコックス・ピオゲネス(A群3型) Su株ペニシリン処理凍結乾燥粉末	溶連菌抽出物注射用		有効成分	無	無	無			
83	2007/02/15	60880	中外製薬	ストレプトコックス・ピオゲネス(A群3型) Su株ペニシリン処理凍結乾燥粉末	牛肉	ウシ骨格筋	オーストラリア	製造工程	有	無	無	BSE	FDA News; P07-04, 2007年1月11日	60874に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文獻	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												BSE	ProMED- mail20061227.3621	60874に同じ
												リケッチア症	ProMED- mail20061130.3391	60874に同じ
84	2007/02/15	60881	旭化成 ファーマ	チソキナーゼ	チソキナーゼ	ヒト胎児肺細胞	米国	有効成分	無	無	無			
85	2007/02/15	60882	三共エー ル薬品	ダルテパリンナトリウム	血液凝固阻 止剤	豚小腸	中華人民共 和国	有効成分	無	無	無			
86	2007/02/16	60883	デンカ生 研	発疹チラスワクチン	卵黄囊	ニワトリの受 精卵	製造中止に より記載な し	製造工程	有	無	無	マラリア	第66回日本寄生虫 学会東日本支部大 会 2006年10月21 日	Plasmodium gallinaceumによる鶏マラリア侵入時の国内 伝播の可能性を調べるため、日本産蚊のP. gallinaceum 媒介性について検討した。蚊に感染血液を吸血させ、経 時的にスポロゾイト(sp)形成を観察し、鶏ヒナへの伝播試 験を行った。アカイエカではsp形成は見られなかったが、 ヒトスジシマカとオオクロヤブカではspが形成され、これら のsp接種および感染ヒトスジシマカの吸血による鶏ヒナへ の感染が確認された。鶏マラリアの検疫強化、発生時対 応策の構築が必要である。
87	2007/02/19	60884	日本生物 製剤	ヒト胎盤抽出物	ヒト胎盤抽 出物	ヒト胎盤	日本	有効成分	有	無	有	異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	血液製剤調査機構 2006年8月24日	厚生労働省は23日の薬事・食衛生審議会・血液事業部 会安全技術調査会でヒト胎盤(プラセンタ)由来製剤(注射 薬)を使用したことのある人からの献血を、無期限で制限 することにした。今回の決定は、英国滞在歴のある日本 人で変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)が確認され たことを受け、英国滞在歴のある人のヒト胎盤が感染源と なるリスクを考慮したものである。
												B型肝炎	読売新聞 2006 年9月30日	B型肝炎の病原ウイルス(HBV)は、これまで知られてい た単純な粒子状ではなく、細長い“尾”が1~2本付いた 形をしていることが、三重大と東京理科大、東京都臨床医 学総合研究所の研究で明らかになった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用指針	感染症(PT)	出典	概要
												異型クローン フェルト・ヤコ ブ病	Guardian 2006 年7月12日	vCJD患者に多硫酸ペントサリウム(PPS)を毎月、頭蓋内投与することで、全ての年齢層の患者で延命効果が見られた。この治療は脳組織の破壊を遅らせる。グラスゴー大学のIan Bone医師は「PPS治療を受けた患者は並外れて長期間生存しているようだが、治療を受けていない患者との直接比較が不可能なため、有効であるとは結論付けることはできない」と述べている。
												異型クローン フェルト・ヤコ ブ病	血液製剤調査機構 Today's News 2006 年10月	ProMetic Life Sciences社と米国赤十字社との合弁会社であるPathogen Removal and Diagnostic Technologies(PRDT)社は、同社のプリオン捕捉フィルターP-Captが欧州規制当局の認可(CEマーク)を取得したと製造販売パートナーのマコファーマ社と共同で公表した。P-Captには、PRDT社が特許を取得しているプリオン結合親和性樹脂が組み込まれており、当面は赤血球濃厚液中の伝達性海綿状脳症(TSE)病原体の除去に使用される。
												C型肝炎	血液製剤調査機構 Today's News 海外 編 2007年1月	ワシントン大学の研究者が、初代肝細胞と患者血清を使用したC型肝炎ウイルス(HCV)の培養法を報告した。この培養法では、少なくとも2ヶ月間、ウイルスを産生し続けることが可能であり、産生されたウイルスは肝細胞に感染したと報告している。これまで、いくつかのHCV培養法が報告されているが、長期にわたりウイルスを産生できる方法はなかった。この研究はAm J Pathol 2007年170号に掲載されている。
												HIV	CDC/MMWR 2006; 55(29); 793-796	2004年12月、多剤耐性(MDR)、dual-tropic HIV-1株による感染が、抗レトロウイルス療法歴のないNew York City (NYC)の46歳男性で初めて診断された。この症例の接触者の公衆衛生調査、およびこのHIV株の有病率を推定するためNYC地域におけるHIV感染患者のウイルス遺伝子配列調査を行った。その結果、同様のリスク因子を有する3例の患者が特定され、これら3例は遺伝子タイピングにより同じHIV株に感染していたことが明らかになった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	古典的CJDの潜伏期間は38.5年であり、vCJDの潜伏期間も非常に長いことが示唆されている。また、未確認ではあるが恐らくかなりの数の血液ドナーが、欧州におけるBSE激増中にフランスで感染した可能性がある。これらのことから、FDAは1980年以降フランスで血液又は血液成分の輸血を受けた者からの供血を無期限に停止するという予防策の導入をガイダンス案として発表した。
												BSE	Canadian Food Inspection Agency 2006年8月24日	カナダ食品検査局調査官は、2006年7月13日にBSEと診断されたAlbertaの50月齢の乳牛に関する疫学的調査を終了した。このウシはカナダで7頭目のBSE牛である。問題の牛のどの部分も、ヒトおよび動物の食物システムには含まれていない。
												BSE	ProMED-mail20060904.2519	最近、ドイツにおいて新しいvCJDの起源に関係する論文が発表された。フランス(H型)およびイタリア(L型またはBASE)で確認された2つの異なる異型BSE表現型に似た異型ドイツBSEが高齢のウシ2頭で明らかになった。両方のドイツ異型BSE例について、ウシPrP ^{Sc} を過剰発現するトランスジェニックマウスへ感染させることに成功した。L型感染マウスは、古典的BSE感染マウスよりも短い潜伏期間の後BSEを発症し、一方、H型では潜伏期間は非常に長かった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail20060904.2519	2006年8月30日、香港保健当局はvCJD疑い症例が評価中であると発表した。患者は英国生まれの23歳男性で、2006年4月初めに香港に戻ってきた。vCJD様症状を示しており、扁桃組織が英国へ送られ検査されたが、陰性であった。今までのところ、vCJDと確定していない。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												感染	FDA News; P06-129, 2006年9月13日	米FDAは、組織の回収に関する安全性要件の重大な違反が最近2件確認され、業務を停止させたことに続き、製造業者に対するガイダンスを発行する。このガイダンスはヒト細胞または組織の回収・加工・保管・表示・包装・流通、ドナーのスクリーニングまたは検査のいずれかまたは全てに関する企業が法的責務を認識することを目的としている。CGTP(Current good tissue practices)は伝染病の導入、伝播、拡散を防ぐこと、製造中の汚染を防ぐことを製造業者に要求している。
												感染	FDA News; P06-116, 2006年8月18日	米FDAは、ドナースクリーニングおよび記録保持の管理を含めた製造業務における重大な欠陥を査察により確認し、ヒト組織再生会社Donor Referral ServicesおよびオーナーのP. Guyettiに対して、ヒト細胞、組織、細胞および組織由来製品のすべての製造業務の即時停止およびこれらの留保を命令した。現時点でFDAは問題の組織による治療を受けた患者における有害反応発生の報告を受けていない。Donor Referral Servicesによりヒトドナーから再生された組織製品は全て回収された。
												感染	FDA News; P06-122, 2006年8月30日	米FDAは、ヒト細胞および組織の安全性に関する総合的専門調査会の設立を発表した。ヒト細胞および組織を規制するために、リスクに基づいた包括的システムを強化するための一環として、FDA Human Tissue Task Force (HTTF)が設立され、主な優先事項として、2005年に発効した組織に関する新たな規制の実施効果の評価が予定されている。一部の組織回収施設が、組織回収について連邦要件を満たしていないとの最近の報告について調査される予定である。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail20061106.3190	PloS Pathogens 2(11)に、大規模なスクリーニングによって、従来とは異なるPrPresがウシにおいて発見され、感染性プリオンの新規の株であることが示された、とのVincent Beringueらの報告が掲載された。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
88	2007/02/20	60885	日本製薬	①加熱人血漿たん白 ②人血清アルブミン ③乾燥ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン ④トロンビン ⑤乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ ⑥人免疫グロブリン ⑦乾燥人血液凝固第Ⅲ因子複合体	ヘパリン	ブタ腸粘膜	ブラジル	①～⑥製造工程 ⑦添加物・製造工程	無	無	無			
89	2007/02/20	60886	三共	フィブリノリジン、デオキシリボヌクレアーゼ	フィブリノリジン	牛の血漿	ニュージーランド	有効成分	無	無	無			
90	2007/02/20	60887	三共	フィブリノリジン、デオキシリボヌクレアーゼ	デオキシリボヌクレアーゼ	牛の膵臓	ニュージーランド	有効成分	無	無	無			
91	2007/02/21	60888	味の素	ヘパリンカルシウム	ヘパリンカルシウム	健康なブタの腸粘膜	中国	有効成分	有	無	無	エルシニア感染	J Med Microbiol 2006; 55: 747-749	散発性エルシニア症の感染経路については、ブタと人との関連性は証明されていない。1995年から2003年にかけて、フィンランドとドイツで下痢のヒト282名の便およびブタ534頭の糞などから得た検体から単離された合計816株のY. enterocolitica 4/O:3を、制限酵素を使ったPFGEで関連性を検討した。その結果、両国共、ヒト由来株のほとんどはブタ由来株と区別ができず、一方、遺伝子型の大部分(182例中178例)は両国で異なっていた。ブタがヒトエルシニア症の重要な起源であることが示唆された。
												ブドウ球菌感染	Ned Tijdschr Geneesk 2006; 150: 1710-1712	最近、オランダで養豚業者がしばしばMRSAを保有することが報告されている。これらのMRSA株はブタでみられるMRSA株と関係がある。ケースコントロール試験の結果、ウシ飼育業者もMRSAキャリアである危険性が明らかとなった。養豚業者が入院する場合は、MRSA陰性と分かるまで、隔離するように勧告する。
												旋毛虫症	Vet Parasitol 2006; 140: 177-180	イタリアの地中海諸島Sardiniaで、初めて旋毛虫症が発生した。アウトブレイクは2005年に2つの村で起こり、同じブタから作った生のソーセージを食べたヒト11名が感染した。11名全員が旋毛虫症の症状を示し、摂食後48日以内に抗体陽転した。病原体はTrichinella britoviであった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 精査	感染症(PT)	出典	概要
												インフルエンザ	ProMED-mail20070108.0077	アイオワ州東部でブタインフルエンザ陽性患者1例が確定された。州当局は警戒の必要はないとしている。患者は入院せずに回復した。ヒトからヒトへの感染の証拠はなかった。このウイルスはヒトに感染しにくく、ヒトはかなり抵抗性を持っている。
92	2007/02/21	60889	ベネシス	人血清アルブミン 乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ 人ハプトグロビン 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	ヘパリン	ブタ小腸粘膜	中国	製造工程	無	無	無			
93	2007/02/21	60890	ベネシス	ウロキナーゼ	精製ウロキナーゼ液	人尿	中国	有効成分	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 313: 92-94	TSEの前兆期に、スクレイピーに感染させたハムスターの血液中のPrPScをPMCA (protein misfolding cyclic amplification)法を用いて生化学的に検出した。潜伏期間の初期には、おそらく血液中に検出されたPrPScは末梢でのプリオンの複製に由来していると思われる。感染しているが発症していない動物の血液中のプリオンを生化学的に検出することができるということは、TSEの非侵襲的早期診断を期待させる。
												バルボウイルス	Thromb Haemost 2004; 92: 838-845	今まで、凝固因子製剤のバルボウイルスB19遺伝子型2による汚染は報告されていないので、市販されている21製剤の202ロットを、バルボウイルスB19遺伝子型1と遺伝子型2のDNAについてPCRにより調べた。遺伝子型1のDNAが、現在投与されているロットの77/181(42.5%)に、1980年代初めまで使用されたロットの17/21(81%)に検出された。遺伝子型2のDNAは、5/202(2.5%)に見出され、その全てが遺伝子型1のDNAに汚染されていた。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	古典的CJDの潜伏期間は38.5年であり、vCJDの潜伏期間も非常に長いことが示唆されている。また、未確認ではあるが恐らくかなりの数の血液ドナーが、欧州におけるBSE激増中にフランスで感染した可能性がある。これらのことから、FDAは1980年以降フランスで血液又は血液成分の輸血を受けた者からの供血を無期限に停止するという予防策の導入をガイダンス案として発表した。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文獻	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												E型肝炎	肝臓 2006; 47: 384-391	わが国のE型肝炎の実態を明らかにする目的で、全国から総数254例のE型肝炎ウイルス感染例を集め、これを解析した。その結果、以下の知見を得た。1)HEVは全国に浸透している。2)感染者の多くは中高年(平均年齢約50歳)で、男性に多い。3)我国に土着のHEVの遺伝型は3型と4型である。4)年齢と肝炎重症度に相関がある。5)遺伝型は4型が顕在化率も重症化率も高い。6)発症時期が無季節性である。7)感染経路は、動物由来食感染が約30%、輸入感染が8%、輸血感染が2%、不明が約60%であった。
												異型クローン フェルト・ヤコ ブ病	Future Virol 2006; 1: 659-674	血液製剤の製造工程におけるプリオンの除去に関する総説である。プリオン除去のための個々の製造工程は、実際の製造条件を実験室での条件にスケールダウンさせ、確立されているスクレイピー株をモデル系として用いて通常は評価されている。しかしながら、血液中のプリオンタンパクの存在形態が不明なので、評価実験のためのスパイク材料としてのプリオンの調製方法は注意深く考慮しなければならない。現在のところ、エタノール分画、PEG分画、カラムクロマトグラフィー、ウイルス除去膜およびデプスフィルターでの濾過が有効とされている。
												ウイルス感染	J Infect Dis 2006; 194: 1276-1282	ヒトボカウイルス感染の疫学的プロファイルおよび臨床的特徴を調べるため、2歳未満の小児のヒトボカウイルスを調査した。直接的免疫蛍光試験でRSV(respiratory syncytial virus)、パラインフルエンザウイルス(1-3型)、インフルエンザAおよびB、並びにアデノウイルスが陰性であった425名中22名(5.2%)がPCRでヒトボカウイルス陽性であり、無症候であった96名では陽性者はゼロであった。この試験期間中、2つの異なる遺伝型が見られた。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS Pathogens 2006; 2: 956-963	最近、大規模なスクリーニングによって、従来とは異なるPrPresがウシにおいて発見された。これらもまた別のプリオン株を代表するかを調べるため、H型と呼ばれる高分子量のウシの単離体を、ウシまたはヒツジのPrPを発現するトランスジェニックマウスに接種した。全てのマウスは神経学的症状を呈し、この株に感染し、感染性プリオンの新規の株であることが示された。この病原体は、BSE病原体およびヒツジスクレイビー病原体とは明らかに異なる特有の神経病理学的特徴を示した。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	FDA/CBER 2006年10月15日 FDA/TSEAC Meeting 2006年12月15日	FDAは、米国で認可されたヒト血漿由来第VIII凝固因子製剤 (pdFVIII) の使用に係る潜在的vCJDリスク評価草案を作成した。FDAの評価モデルの結果は、血友病Aおよびフォンウィルブランド病患者に使用されるpdFVIII製剤の、vCJD感染リスクは非常に低い、ゼロではないかもしれないことを示唆した。またTSEAC (TSE Advisory Committee) は、pdFVIII製品中のTSE除去の適切な閾値について議論した。TSE除去レベルにより、vCJD感染リスクは大きく変動することが示された。
												結核	NIKKEI NET いきいき健康 2006年12月5日	既存の治療薬がほとんど効かず、世界保健機関(WHO)が警戒を呼び掛けている「超多剤耐性」の結核菌が、国内でも入院患者の0.5%から検出されたことが、結核研究所の調査で明らかになった。2002年6月から11月にかけて国内99の結核治療施設の入院患者3122人から採取した結核菌を分析した結果である。検出例の半数は薬の服薬歴がなかったことから、他の患者から感染した可能性が高い。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	CDC 2006年11月29日	米国で3例目のvCJD症例が確定された。サウジアラビアで生まれ育った若年成人で、2005年後半から米国に住んでいる。2006年11月下旬にアデノイドおよび脳生検により確定診断された。この患者に輸血歴やヨーロッパ訪問歴はなく、子供の頃にサウジアラビアでBSE感染牛製品を摂取したことが原因と思われる。この患者に供血歴はなく、公衆衛生的調査により、米国住民への伝播の危険はないと同定された。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												アルツハイマー型認知症	Science 2006; 313: 1781-1784	アルツハイマー病患者、またはβ-アミロイド前駆体タンパク質(APP)発現トランスジェニックマウスから得たアミロイド-β(Aβ)含有脳抽出物の希釈液をAPPTランスジェニックマウスの大脳内に注射すると、時間と濃度に依存した大脳内のβ-アミロイド-シスとそれに伴う病変を誘発した。脳抽出物のシーディング活性は、Aβ免疫除去、タンパク変性、またはAβを宿主に免疫することによって、低下または消失した。外因性に誘発させたアミロイド-シスの表現型は、宿主と誘導物質の起源の両者に依存した。
												異型クローンフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 368: 2226-2230	ヒト濃縮赤血球に混入した脳由来の感染性物質を約4 log ID50減らすことのできるアフィニティ樹脂L13と同等能力のL13Aとについて、血中に存在する内因性TSE感染性物質の除去能力を評価した。スクレイビーに感染させたハムスターの全血は白血球除去によって感染性の72%が除去された。99匹中15匹が白血球除去した全血に感染したが、更に各々の樹脂を通過して得られた最終産物を接種された96匹又は100匹はいずれも発症しなかった。樹脂によって内因性TSE感染性物質が除去されることが示された。
												トリパノソーマ症	FDA News P06-198 2006年12月13日	米国FDAは2006年12月13日、重篤且つ致死性の寄生虫感染症のシャガス病を引き起こす血液寄生虫について血液ドナーをスクリーニングする新しい検査を承認した。この試験はORTHO T. cruzi ELISA Test Systemと呼ばれ、trypanosoma cruzi抗体を検出するもので、このような検査としては初めてFDAに承認されたものである。この検査は、全血の供血者のスクリーニングに加えて、臓器、細胞及び組織ドナーからの血漿及び血清をスクリーニングするのに用いられる。
												異型クローンフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2006; 12(44): 4-5	伝達性海綿状脳症(TSE)諮問委員会が2006年12月15日に公開で開催され、ヒト血漿由来抗血友病因子(FVIII)製剤におけるvCJDへの潜在的曝露に関するFDAのリスク評価ならびに血漿由来FVIII製造におけるTSEクリアランスのレベルについて討論された。このリスク評価に対して諮問委員会は、報告が強制でないことや、最終製品のリスク減少を推定をする際に用いたエビデンスに対して懸念を表明した。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 精査	感染症(PT)	出典	概要
94	2007/02/23	60891	ZLBベ リング	人CI-インアクチベーター	人CI-イン クチベーター	ヒト血液	米国、ド イツ、オ ースト リア	有効成分	有	有	無	HHV-8感染	N Engl J Med 2006; 355: 1331-1338	2000年12月から2001年10月に輸血を受けたウガンダのKampalaの患者1811例のうち、輸血前にヒトヘルペスウイルス8型(HHV-8)血清陰性であった患者991例について追跡調査を行った。そのうち43%(425例)にHHV-8血清陽性血が輸血された。991例中41例にHHV-8セロコンバージョンが起こったが、セロコンバージョンのリスクは陽性血を輸血された患者の方が陰性血を輸血された患者より有意に高かった。
												ウイルス感染	Transfusion 2006; 46: 1352-1359	全血輸血により、サルフォamyウイルス(SFV)感染が起こるかをアカゲザルを用いて調べた。自然感染ザル2匹の全血を、各々、レトロウイルスを持たないサル2匹に輸血したところ、1匹のドナーからのレシピエントでは感染し、もう1匹のドナーからのレシピエントは感染しなかった。ヒトでのSFV輸血伝播の可能性が示された。
95	2007/02/23	60892	ZLBベ リング	人血清アルブミン 人免疫グロブリンG 破傷風抗毒素 フィブリノゲン加第XIII因子 ペプシン処理人免疫グロブリンG 乾燥濃縮人アンチトロンビンIII	ヘパリンナ リウム	ブタ腸粘膜	中国	製造工程	無	無	無			
96	2007/02/26	60893	大日本住 友製薬	アガリンダーゼ アルファ(遺伝子組換え)	トリプシン	ブタ膵臓	米国又はカ ナダ	製造工程	無	無	無			
97	2007/02/26	60894	大日本住 友製薬	アガリンダーゼ アルファ(遺伝子組換え)	ヘパリン	ブタ腸粘膜	米国、カナ ダ又は中国	製造工程	無	無	無			
98	2007/02/26	60895	大日本住 友製薬	アガリンダーゼ アルファ(遺伝子組換え)	ヒト線維肉 腫由来細胞 株(HT-1080 由来)	ヒト細胞株	米国	製造工程	無	無	無			
99	2007/02/26	60896	大日本住 友製薬	アガリンダーゼ アルファ(遺伝子組換え)	ウシ血清由 来成分	ウシ血液	ニュージー ランド又は オーストラ リア	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
100	2007/02/26	60897	大日本住友製薬	アガルシダーゼ アルファ(遺伝子組換え)	乳糖	ウシ乳	米国	製造工程	無	無	無			
101	2007/02/26	60898	大日本住友製薬	アガルシダーゼ アルファ(遺伝子組換え)	ウシ血清由来成分	ウシ血液	米国	製造工程	無	無	無			
102	2007/02/26	60899	麒麟麦酒	エポエチンアルファ(遺伝子組換え)	チャイニーズハムスター卵巣細胞	チャイニーズハムスター卵巣細胞	10数年前に樹立したマスタセルバンクに使用した動物の細胞株	製造工程	無	無	無			
103	2007/02/26	60900	麒麟麦酒	エポエチンアルファ(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ胎児血清	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	炭疽	ProMED-mail20061106.3187	オーストラリアのニューサウスウェールズ州では最近、2件の炭疽発生が認められたが、これらによる家畜の死亡はほとんどなかった。1件目で死亡したのは牛1頭のみで、2件目では子羊2頭が死亡した。両例とも既知の炭疽ベルト地帯で発生したが、この地帯では日常的に1年あたり約4件の発生がある。両例は政策に従って取り扱われた。すなわち、死亡した家畜は焼却され、接触のあった家畜全頭にワクチン接種が行われた。その後、これらの家畜場で死亡例は発生していない。
104	2007/02/26	60901	麒麟麦酒	エポエチンアルファ(遺伝子組換え)	トリプシン	ブタ降膜由来トリプシン	アメリカ合衆国、カナダ	製造工程	有	無	無	炭疽	ProMED-mail20060716.1957	カナダSaskatchewan州では家畜で炭疽が大流行しているが、同州メルフォートに住む男性1名が皮膚炭疽を発症した。2006年7月14日の同州政府の発表によれば、この男性は現在抗生物質による治療を受けており、完全に回復すると予想されている。皮膚炭疽は炭疽の中で最も一般的であり、重篤度が最も低いものである。皮膚炭疽はヒトの皮膚の破損(切り傷や擦り傷によるもの)が罹患動物や死亡動物に存在する炭疽菌胞子と直接接触すると感染すると考えられる。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文獻	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												炭疽	ProMED-mail20060720.1993	カナダSaskatchewan州では家畜で炭疽が大流行しており、47カ所の施設が隔離された。42カ所の確認された施設は、ウシの牧場 35カ所、ウマ 1カ所、ブタ 1カ所、バイソン 5カ所、オジロジカ 1カ所、ウシとウマ 1カ所、ウシとヒツジ 1カ所、ヒツジ 1カ所であった。10カ所の施設では、死体からのサンプリングが行なわれ、結果を待っている。死亡した動物は、ウシ148頭、ウマ6頭、ブタ1頭、ヒツジ3頭、バイソン34頭、オジロジカ8頭である。死体の処理方法は、焼却50%、埋葬24%、未定あるいは不明26%である。
												炭疽	ProMED-mail20060924.2728	カナダ食品検査庁(CFIA)によると過去2週間に炭疽の新たな症例は確認されていない。たとえ新たな症例が発生しようとしても、その可能性は9月後半および10月に入るにつれて減少する。サスカチエワン州で記録されている最悪の炭疽大流行では、ウシ493頭、バイソン254頭、ヒツジ29頭、オジロジカ13頭、ウマ6頭、ブタ3頭、ヤギ2頭など800頭の動物が死亡した。来年(2007年)も再び炭疽が発生する可能性があり、発生の多くは春の気候条件に左右される。
												鳥インフルエンザ	ProMED-mail20061008.2890	Udayana大学獣医学部のチームは、パリで鳥インフルエンザウイルスがブタに感染したことを示す証拠を発見した。現在、さらに広範な規模の研究が進行中である。20頭のブタのうち、2頭がH5N1ウイルス感染陽性であった。鶏および鴨の飼育パターンによりこれらの動物がブタ小屋に自由に入れることから、ウイルスの接触感染が見込まれるということである。パリでは900,000頭のブタがウシと隣り合わせで飼育されている。
105	2007/02/27	60902	化学及血清療法研究所	乾燥抗破傷風人免疫グロブリン	抗破傷風人免疫グロブリン	ヒト血液	米国	有効成分	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	古典的CJDの潜伏期間は38.5年であり、vCJDの潜伏期間も非常に長いことが示唆されている。また、未確認ではあるが恐らくかなりの数の血液ドナーが、欧州におけるBSE激増中にフランスで感染した可能性がある。これらのことから、FDAは1980年以降フランスで血液又は血液成分の輸血を受けた者からの供血を無期限に停止するという予防策の導入をガイダンス案として発表した。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
106	2007/02/27	60903	化学及血清療法研究所	乾燥人血液凝固第Ⅹ因子複合体 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅹ因子	血液凝固第Ⅹ因子	ヒト血液	日本	有効成分	無	無	無			
107	2007/02/27	60904	化学及血清療法研究所	乾燥人血液凝固第Ⅹ因子複合体 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅹ因子 乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ	ヘパリンナトリウム	ブタ小腸粘膜	中国、フランス、米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
108	2007/02/27	60905	化学及血清療法研究所	乾燥細胞培養痘そうワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン	初代腎臓培養細胞	ウサギ腎臓	日本	製造工程	無	無	無			
109	2007/02/27	60906	化学及血清療法研究所	乾燥細胞培養痘そうワクチン 乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン	ラクトアルブミン	ウシ乳	オーストラリア、米国、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	ウイルス感染	CDC/MMWR 2007; 56(04): 73-76	2006年12月中旬にケニア保健省に発熱と全身出血と伴った原因不明の死亡例数例が北東部のGarissa地区から報告された。12月20日までに計11例の死亡例が報告された。患者19例中10例の血清からリフトバレー熱(RVF)ウイルスRNAまたはRVFウイルスに対するIgM抗体が検出された。黄色熱、エボラ、クリミア-コンゴ出血熱、デングウイルスには全ての血清検体が陰性であった。6検体からRVFウイルスが単離され、確定された。2007年1月25日現在、死亡118例を含む404症例が報告されている。
110	2007/02/27	60907	化学及血清療法研究所	乾燥細胞培養痘そうワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 組織培養不活化狂犬病ワクチン	血清	ウシ血液	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	ウイルス感染	CDC/MMWR 2007; 56(04): 73-76	60906に同じ
111	2007/02/27	60908	化学及血清療法研究所	①乾燥細胞培養痘そうワクチン ②乾燥弱毒生風しんワクチン ③乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン ④組織培養不活化狂犬病ワクチン	筋アデニル酸	ウマ肉	米国	①～③製造工程・添加物 ④製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要	
112	2007/02/27	60909	化学及血清療法研究所	①乾燥細胞培養痘そうワクチン ②沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ③沈降破傷風トキソイド ④ジフテリア破傷風混合トキソイド ⑤ジフテリアトキソイド ⑥コレラワクチン ⑦乾燥ジフテリアウマ抗毒素 ⑧乾燥ボツリヌスウマ抗毒素 ⑨沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン ⑩破傷風トキソイド	ペプトン	ブタ胃	日本、米国	①添加物 ②～⑩製造工程	無	無	無				
113	2007/02/27	60910	化学及血清療法研究所	①乾燥細胞培養痘そうワクチン ②乾燥弱毒生風しんワクチン ③乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン ④組織培養不活化狂犬病ワクチン	コレステロール	ヒツジ毛	ニュージールランド、オーストラリア	①～③製造工程・添加物 ④製造工程	有	無	無	ウイルス感染	CDC/MMWR 2007; 56(04): 73-76	2006年12月中旬にケニア保健省に発熱と全身出血と伴った原因不明の死亡例数例が北東部のGarissa地区から報告された。12月20日までに計11例の死亡例が報告された。患者19例中10例の血清からリフトバレー熱(RVF)ウイルスRNAまたはRVFウイルスに対するIgM抗体が検出された。黄色熱、エボラ、クリミア-コンゴ出血熱、デングウイルスには全ての血清検体が陰性であった。6検体からRVFウイルスが単離され、確定された。2007年1月25日現在、死亡118例を含む404症例が報告されている。	
114	2007/02/27	60911	化学及血清療法研究所	乾燥細胞培養痘そうワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン	ラクトビオン酸エリスロマイシン	ウシ乳	米国、カナダ、ニュージールランド	製造工程	有	無	無	ウイルス感染	CDC/MMWR 2007; 56(04): 73-76	60910と同じ	
115	2007/02/27	60912	シェリング・プラウ	インターフェロンアルファ-2b(遺伝子組換え)	人血清アルブミン	人血液	米国	添加物	有	無	無	クロイツフェルト・ヤコブ病	J Neurol Neurosurg Psychiatry 2006; 77: 880-882	1970年～2003年にヒト硬膜に関連したCJD7例が英国で確認された。手術後発病までの期間は平均93ヶ月(45～177ヶ月)であった。さらに、世界で初めて、ブタ硬膜片レシーピエントでCJD1例を確認した。これらの症例の臨床的、病理学的特徴について述べている。	

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	Pediatr Infect Dis J 2006; 25: 390-394	台湾の小児におけるSENウイルス(SEN)感染の感染経路、輸血と肝疾患における役割を調べた。健康者および病気の小児由来の血清中のSEN-DおよびSEN-H DNAをPCRで検出したところ、サラセミアの小児、心臓手術中に輸血を受けた小児、慢性B型またはC型肝炎の小児、ならびに胆汁閉鎖の乳児ではSEN-D/H血症の有病率が有意に高かった。SENは若年時に感染する割合が高く、輸血はSEN血症率を有意に増加させる。
												ウイルス感染	J Med Virol 2006; 78: 747-756	サイトメガロウイルス(CMV)、パルボウイルスB19 およびヒトヘルペスウイルス(HHV)7と胎盤感染との相関について調べた。2つのプロスペクティブおよび1つのレトロスペクティブコホートからの母子の検体について、multiplex PCRを用いた催奇形性病原体検査を実施したところ、105検体中13%で胎盤感染が認められた。胎児の死亡と関連する主な胎盤感染病原体はヒトCMVであった。
												HIV	J Acquir Immune Defic Syndr 2006; 42: 248-255	2004年1月から2005年4月に、台湾でHIV-1感染した注射薬物使用者(IDUs)の分子疫学的研究を行った。HIV-1陽性131検体を調べたところ、128例でHIV-1 CRF07_BCが確認された。これは、中国のIDUsの間で優位に循環しているウイルス株に似ていた。23例は中国南西地方への旅行歴があり、そこで針や器具を共有していたことから、HIV-1 CRF07_BCは中国から台湾へ伝播した可能性が示唆された。
												ウイルス性脳炎	CDC/MMWR 2006; 55(25): 697-700	2005年8月～9月の間に、ニューハンプシャーHealth Human Serviceは東部ウマ脳炎ウイルス(EEEV)のヒト症例7例を報告したが、41年間の国家サーベイランスで初めての確定例である。同時期にマサチューセッツ公衆衛生局もEEEVヒト症例4例を報告したが、これは同州の過去10年間の報告例の年間平均の5倍に相当する。同州の患者11例中4例が死亡した。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用指値	感染症(PT)	出典	概要
												マラリア	ProMED-mail20060627.1783	2006年1月以降、インドWest Bengal州においてマラリアの新規株によりヒト55例が死亡し、18000例以上が感染した。Darjeelingでは2006年1月以降、約2400例がマラリアに感染し、Plasmodium falciparumの新規株が感染の原因であると思われる。この新規株は、ミャンマーまで追跡され、突然変異を起こし、薬物抵抗型になった。従来の薬物はほとんど効果がなく、混合した物を試している。
												デング熱	ProMED-mail20060624.1756	ベトナムHo Chi Minh市予防医学センターは、2006年初頭から約2,700例のデング熱症例を報告した。この症例数は、2005年の同期間と比較して2倍である。水道普及率が低い地区でデング熱の発生率が高い。
												感染	HPS Weekly Report 2006; 40(27): 144	スコットランドのGenitourinary Medicine(GUM)クリニックの活動に基づく2005年の性感染症更新データ等を含む集計表が発表された。2004年と比べて、性器クラミジアは8%、淋病は7%、性器ヘルペスは4%、HIVは11%増加した。
												デング熱	ProMED-mail20060713.1935	2006年1～6月にフィリピンIloilo市で、デング熱10例(内3例は死亡例)が報告されているが、前年同時期の40例に比べると報告数は減少している。しかし、2005年1～6月にはデング熱による死亡例はなかった。ブラジルでは2006年6月末の首都Sao Pauloにおけるデング症例は、373例であり、2005年同時期の約10倍であった。
												コンゴ・クリミア出血熱	ProMED-mail20060719.1985	2006年、ロシア南連邦管区Rostov地域において、クリミアコンゴ出血熱の罹患患者数が増加している。これまでに47例(死亡5例を含む)が記録されている。2005年同期間には16例であった。クリミアコンゴ出血熱の増加は環境中のダニ密度の増加と関連がある。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												トリパノソーマ 症	CDC/MMWR 2006; 55(29): 798-800	ロサンジェルスでの心臓移植患者2名で、臓器移植によるシャーガス病伝播が見られた。1例は拒絶反応による合併症で死亡し、もう1例は心不全で死亡した。両例ともドナーがTrypanosoma cruzi感染者であったことが明らかとなった。米国における固形臓器移植によるT. cruzi伝播としては4例目と5例目になる。
												寄生虫感染	ProMED- mail20060721.2007	ケニア保健省は、Eastern地方においてカラアザール(内臓リーシュマニア症)のアウトブレイクを確認した。脾臓吸引により少なくとも10例が陽性と確定された。30人以上の小児がカラアザールの症状で入院中である。
												B型肝炎	Hepatology 2006; 44: 99-107	HBV表面抗原(HBsAg)検査とミニプール核酸増幅検査(NAT)により、アフレーシス(血漿/血小板)ドナー1例が、急性HBV感染と診断され、2週間後の抗HBc(IgM)と抗HBsの検出により確定された。ドナーは臨床症状を示さず、ALT値も正常であった。ドナーおよび各レシピエントの保存検体を高感度HBV NATsにより検査したところ、ドナーの過去の献血検体だけでなく、濃縮血小板を輸血された2例のレシピエントからもHBV DNAが検出され、さらに全例が遺伝子型タイプG単独感染であることが明らかとなった。
												コンゴ・クリミア 出血熱	WHO/EPR 2006年8 月8日	2006年1月1日～8月4日にトルコ保健省により、死亡20例を含むクリミアコンゴ出血熱の検査確定症例242例(症例致死率:8.3%)が報告された。このうち92症例および新規に報告された死亡例9例は、2006年6月30日以降の最新情報に該当する。死亡例のうち1例は、クリミアコンゴ出血熱症例の治療中に感染した医療従事者であった。
												細菌感染	AABB Weekly Report 2006; 12(27): 2-3	米国、カンザスシティのCommunity Blood Center(CBC)は、大腸菌を含む血小板1ユニットを投与された入院患者が死亡して以降、ドナーに対し文書を発行し、複数の内部変革を実施した。FDAは、この輸血が患者の死亡に“貢献した因子”であると断定している。ドナーが2005年12月にCBCに来院した時点では健康であった。しかしながら多重システムの障害により、細菌学的に陽性の血液ユニットが地域の病院へ提供された。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												マラリア	AABB Weekly Report 12(32): 10, 2006年9月15日	2006年9月8日付けのKorea Timesによると、交通事故後に輸血を受け、その後マラリアと診断された患者が、疑わしい血液の流通を防ぐことができなかった韓国赤十字を批判している。韓国赤十字は状況を知りながら、何の行動も起こさず、その結果、不適切な血液製品が流通し続けたとのことである。輸血によるマラリア感染で既に1名の患者が死亡している。
												B型肝炎	ProMED-mail20060921	京都市の洛和会音羽病院において、透析治療を受けていた50代~70代の患者8例が2006年8月にB型肝炎に罹患し、このうち5例は入院していることを、2006年9月20日に同病院関係者が発表した。病院および京都市は、院内感染として扱っており、これら8例が同時期に感染した可能性があるという結論が出された後、病院は、2006年9月11日に市に対して注意を促し、器具の消毒を行った。
												HIV	ProMED-mail20060920.2689	南カザフスタン州のShymkent市の小児病院において、輸血や注射を含む治療を受けていた小児55例がHIV感染と診断された。保健大臣は、この集団感染が輸血中の衛生水準の悪さ、使い捨て器具の再利用および血液ドナー登録システムの不備に起因するものであると指摘した。当局は、病院でその血液が使用されたHIV感染が疑われる17例のドナーを捜索している。カザフスタンでは、2006年上半期に新規HIV感染者828例およびAIDS患者70例が登録されており、2005年の新規症例に比べ70%増である。
												ウイルス感染	ProMED-mail20060917.2650	2006年初頭以来、Bashkortostan共和国において1,600例が、腎症候性出血熱(HFRS)に罹患している。2005年と比較した罹患率は2倍を超えており、3例が死亡している。最近3、4年のHFRSの罹患率は低い傾向であったが、2005年から急激に上昇した。この現象は、HFRSウイルスを保有する野ネズミの高密度分布によりもたらされたと考えられている。専門家の見解によると、HFRSを罹患する可能性の高い危険な時期は、2006年の10月末まで延長することが見込まれている。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												パルポウイルス	J Infect Dis 2006; 194: 608-611	ガーナ人妊婦885名の分娩時の血漿検体についてヒトパルポウイルス(HPV) B19 DNAとB19特異抗体を検査した。母親血漿と臍帯血のペア検体、また新生児の全血も検査した。母親のHPV B19 DNA陽性率は、1.8%(そのうち94%は遺伝子型3型株)であり、IgG陽性率は、81%であった。HPV B19初感染の母親3症例中2例は胎児への感染を起こした。HPV B19 DNAとHPV B19特異IgGの共存は、13名(1.5%)の女性で見られたが、胎児へのウイルスの伝播は認められなかった。
												梅毒	Public Health Agency of Canada 2006年9月29日	オクラホマ州保健局は、2006年5月最終週から9月13日の間の定期的疾患サーベイランス中に、Washington郡 Bartlesvilleにおいて早期梅毒症例13例が確認されたと発表した。これらの症例は、全て異性との接触を介して感染し、大半の症例は、クラック(高純度コカイン)およびmethamphetamine使用、またはドラッグおよび金銭を目的とした性交と関連があった。最近5年間にWashington郡において確認された早期梅毒症例は、1例のみであった。
												HHV-8感染	AABB Weekly Report 2006; 12(35): 9-10	2006年9月28日発行のN. Engl. J. Med.によれば、米CDCの研究者とウガンダの共同研究者らは、ヒトヘルペスウイルス8型(HHV-8)血清陽性血液を輸血されたレシピエントにおけるセロコンバージョンのリスクを、HHV-8血清陰性血液を輸血されたレシピエントとの比較により算出した。ウガンダのKampalaで輸血前にHHV-8血清陰性の患者において、HHV-8血清陰性血液を輸血された群より、HHV-8血清陽性血液を輸血された群の方が、リスクが約3倍高いことが示された。
												デング熱	Public Health Agency of Canada 2006年10月13日	カナダ公衆衛生局は世界中のデング熱発生状況の監視を続け、旅行者に注意を呼びかけている。ブラジルでは2006年最初の30週で234068例、ドミニカ共和国では36週で3528例、エルサルバドルでは37週で17256例などと、2005年の総数より増加している。
												ウイルス感染	ProMED-mail20061014.2953	フランスCDCであるInVSによると、住民760000人のLa Reunionで、2005年3月から2006年9月末までに266000例のチクングンヤ患者が推定された。チクングンヤは246の重症例で証明されており、確定例の27%が死亡した。また、母子感染が44例報告された。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用指値	感染症(PT)	出典	概要
												感染	GDR Weekly 2006; 16(43)	2005年1月1日から12月31日までに英国の血液センターから輸血伝播感染症(TTIs)疑い症例46例が報告された。調査の完了後、3例(B型肝炎1例、細菌血症2例)がTTIsと確定された。供血者でA型肝炎感染の2例についても調査が行われた。残り41例中40例は感染源として輸血は関連していなかった。1例(C型肝炎)は調査が未完了である。2006年初頭に受血者において、臨床的に診断されたvCJD症例が追加報告された。同症例は英国で3症例目となる輸血に関連したvCJDの症例である。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vox Sanguinis 2006; 91: 221-230	散在性(s)、家族性(f)および異型(v)クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)が輸血を介して感染伝播するかを判定するために、英国CJDサーベイランスユニットと血液サービスにより進行中の試験の2006年3月1日までの結果である。供血者として報告されたvCJD 31例中18例、sCJD 93例中3例およびfCJD 5例中3例の血液が、各々、66例、20例および11例の受血者へ輸血されていた。2例の受血者においてvCJDが確定していた。また、vCJD11例中7例、sCJD52例中7例が、輸血の既往歴があった。
												ウイルス感染	第60回日本細菌学会東北支部総会 2006年8月24-25日	サイトメガロウイルス(CMV)が臓器移植の際にCMV抗体を有しているレシピエントに再感染した場合の影響を調べるため、術前ドナーおよびレシピエントに潜伏感染するCMVのタイプを検索しCMVが再感染する可能性がある組み合わせを同定し、移植術後の臨床経過を解析した。移植後急性拒絶反応はCMV再感染の組み合わせにおいて62%と他のグループ(25%、23%)に比し有意に高率であった。また、術後6ヶ月のCMV感染発症率、アンチゲネミア陽性細胞数は初感染、再感染グループは中和グループより有意に高かった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BMC Public Health 2006; 6: 278	1993年から2002年までのヨーロッパCJD共同体11カ国における各種のヒト感染性海綿状脳症による年次死亡率、診断テストにおける変動を調べた。sCJDの病理学的確定症例の国家間隔差は、時間の変遷を問わず安定していた。英国、フランスではvCJD発症は高率であり、発症率が増加傾向であった。フランス、英国で医原性CJDの発症は高率であるが、減少傾向であった。スロバキア、イタリアにおける遺伝性CJDの発症は高率であり、時間の経過に関わらず安定していた。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												リケッチア症	ProMED-mail20061130.3391	アイオワ大学感染症科は最近6ヶ月で8例のQ熱患者を診察した。州保健局は2006年だけで他に11例を報告している。過去3年間で4例であったことに比べると、発生率もしくは報告数が有意に増加している。アイオワ南東部またはイリノイ北西部に住んでいる8例の内2例はウシ、ヤギまたはウマとの明らかな接触歴があり、4例は動物との希薄な接触歴があった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail20061208.3468	異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)に汚染された輸血を受けた後、vCJDと診断された3例目が報告された。23才の時に輸血を受けた後に体調を崩し、7.5年後にvCJDと診断され、32才で死亡した。死亡後、扁桃腺組織検査によりvCJDが確認された。この症例は、献血後にvCJDを発症したドナーから輸血を受けたことが the National Blood Serviceにより特定されている66症例中の1例であった。
116	2007/03/02	60913	サノフィア スツール 第一ワク チン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン(破傷風トキソイド結合体)	脱線ウマ血液	ウマ血液	フランス	製造工程	無	無	無			
117	2007/03/02	60914	サノフィア スツール 第一ワク チン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン(破傷風トキソイド結合体)	ウシ心臓浸出液	ウシ心臓	米国	製造工程	無	無	無			
118	2007/03/02	60915	サノフィア スツール 第一ワク チン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン(破傷風トキソイド結合体)	ウシ骨格筋由来成分	ウシ骨格筋	オーストラリア	製造工程	無	無	無			
119	2007/03/02	60916	サノフィア スツール 第一ワク チン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン(破傷風トキソイド結合体)	ペプトン	ブタ皮	米国及びカナダ	製造工程	無	無	無			
120	2007/03/02	60917	サノフィア スツール 第一ワク チン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン(破傷風トキソイド結合体)	カゼイン酸加水分解物	ウシ乳	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
121	2007/03/02	60918	サノフィア スツール 第一ワク チン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン(破傷風トキソイド結合体)	ヘミン	ウシ血液	米国	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
122	2007/03/02	60919	サノフィバ スツール 第一ワク チン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン(破傷風ト キソイド結合体)	カゼインパン クレアチン消 化物	ウシ乳	米国、 ニュージー ランド、オー ストラリア、 フランス及 びヨーロッ パ	製造工程	無	無	無			
123	2007/03/02	60920	サノフィバ スツール 第一ワク チン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン(破傷風ト キソイド結合体)	肉エキス	ウシ肝臓及び 肺	フランス	製造工程	無	無	無			
124	2007/03/02	60921	サノフィバ スツール 第一ワク チン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン(破傷風ト キソイド結合体)	トリブシンV	ウシ乳	ニュージー ランド	製造工程	無	無	無			
125	2007/03/02	60922	サノフィバ スツール 第一ワク チン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン(破傷風ト キソイド結合体)	カゼインペプ チドN3	ウシ乳	ニュージー ランド	製造工程	無	無	無			
126	2007/03/02	60923	サノフィバ スツール 第一ワク チン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン(破傷風ト キソイド結合体)	スキムミルク	ウシ乳	米国	製造工程	無	無	無			
127	2007/03/02	60924	東菱薬品 工業	ヘモコアグラゼ	ヘモコアグ ラーゼ	蛇毒	ブラジル	有効成分	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 精置	感染症(PT)	出典	概要
128	2007/03/02	60925	東菱薬品工業	幼牛血液抽出物	幼牛血液抽出物	幼牛血液抽出物	オーストラリア、ニュージーランド	有効成分	有	無	無	ロタウイルス胃腸炎	J Clin Microbiol 2006; 44: 4101-4112	臨床的に感染した子牛から単離したウシA群ロタウイルス株KJ44とKJ75の11の遺伝子の配列をシーケンスし、解析した。うち2つはウシ関連株との関連を示したが、残り9遺伝子はブタA群ロタウイルスと密接な関連を示した。KJ44とKJ75はG5ロタウイルスと高いアミノ酸相同性を示し、典型的なブタロタウイルスであるNSP4genotype Bに属した。G5遺伝子型ウシロタウイルス株はウシ株とブタ株間の自然再構築の結果発生した、新規のウシにおけるG遺伝子型であることが示唆された。
129	2007/03/02	60926	持田製薬	日本薬局方ヘパリンナトリウム注射液	日局ヘパリンナトリウム	ブタ腸粘膜	フランス	有効成分	無	無	無			
130	2007/03/05	60927	川崎三鷹製薬	胎盤性性腺刺激ホルモン	胎盤性性腺刺激ホルモン	ヒト尿	中国	有効成分	無	無	無			
131	2007/03/05	60928	武田薬品工業	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド コレラワクチン ジフテリアトキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥破傷風ウマ抗毒素	ウシ肉水	ウシ肉	オーストラリア	製造工程	無	無	無			
132	2007/03/05	60929	武田薬品工業	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド 沈降精製百日せきワクチン ジフテリアトキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥破傷風ウマ抗毒素	カザミノアシド	ウシ乳	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
133	2007/03/05	60930	武田薬品工業	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥痘そうワクチン 沈降精製百日せきワクチン コレラワクチン ジフテリアトキソイド ワイル病秋やみ混合ワクチン ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥ジフテリアウマ抗毒素	ポリペプトン	ウシの乳	ニュージーランド、中国	製造工程	無	無	無			
134	2007/03/05	60931	武田薬品工業	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 日本脳炎ワクチン 乾燥日本脳炎ワクチン 弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	ラクトアルブミン水解物	ウシの乳	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	無	無	無			
135	2007/03/05	60932	武田薬品工業	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥破傷風ウマ抗毒素	ウシ心臓透析外液	ウシ心臓	オーストラリア	製造工程	無	無	無			
136	2007/03/05	60933	武田薬品工業	インフルエンザHAワクチン	発育鶏卵	発育鶏卵	日本	製造工程	無	無	無			
137	2007/03/05	60934	武田薬品工業	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	ニワトリ胚細胞	ニワトリ胚	日本	製造工程	無	無	無			
138	2007/03/05	60935	武田薬品工業	乾燥まむしウマ抗毒素 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥破傷風ウマ抗毒素	ペプシン	ブタ胃	アメリカ合衆国	製造工程	無	無	無			
139	2007/03/05	60936	武田薬品工業	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	トリプシン	ブタ膵臓	アメリカ合衆国、カナダ	製造工程	無	無	無			
140	2007/03/05	60937	武田薬品工業	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥破傷風ウマ抗毒素	バクカジン	ウシの乳	ニュージーランド、アメリカ合衆国、オーストラリア	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 指量	感染症(PT)	出典	概要
141	2007/03/05	60938	武田薬品 工業	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 日本脳炎ワクチン 乾燥日本脳炎ワクチン 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	ウシ血清	ウシ血液	アメリカ合衆 国、ニュー ジーランド、 オーストラ リア	製造工程	無	無	無			
142	2007/03/05	60939	武田薬品 工業	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混 合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド 沈降精製百日せきワクチン ジフテリアトキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥破傷風ウマ抗毒素	スキムミルク	ウシ乳	アメリカ合衆 国、日本	製造工程	無	無	無			
143	2007/03/05	60940	武田薬品 工業	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混 合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥破傷風ウマ抗毒素	ウシ肝臓	ウシ肝臓	オーストラ リア	製造工程	無	無	無			
144	2007/03/05	60941	武田薬品 工業	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混 合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリアトキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥ジフテリアウマ抗毒素	ウマ血清	ウマ血液	ニュージー ランド	製造工程	無	無	無			
145	2007/03/05	60942	武田薬品 工業	痘そうワクチン 乾燥痘そうワクチン	ウシ皮膚	ウシ皮膚	日本	製造工程	無	無	無			
146	2007/03/05	60943	武田薬品 工業	乾燥弱毒生風しんワクチン	筋アデニール 酸	ウマ筋肉	アメリカ合衆 国	製造工程	無	無	無			
147	2007/03/05	60944	武田薬品 工業	ワイル病秋やみ混合ワクチン	ウサギ血清	ウサギ血液	日本	製造工程	無	無	無			
148	2007/03/05	60945	武田薬品 工業	乾燥まむしウマ抗毒素 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥破傷風ウマ抗毒素	ウマ免疫グ ロブリン	ウマ血清	日本	有効成分	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
149	2007/03/06	60946	日本ビーシージー製造	精製ツベルクリン	全卵	ニワトリの卵	日本	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1295-1297	2006年2月にイラク北部の町で死亡したニワトリ、ガチョウ、ネコの組織でウイルス学的検査を実施したところ、インフルエンザA H5ウイルスが全ての種で検出された。またネコとガチョウ、および死亡したヒト由来のウイルスは、2005年に中国西部のQinghai湖のガチョウから分離された高病原性トリインフルエンザH5N1ウイルスと密接な関連があるQinghai様ウイルスであることが示された。
												鳥インフルエンザ	J Gen Virol 2006; 87: 3655-3659	日本で分離されたH5N1トリインフルエンザAウイルス(A/chicken/Yamaguchi/7/2004)に感染し死亡したマウスから回収されたウイルスの病原性について調べた。脳から回収されたウイルスは全てPB2タンパクの627位のアミノ酸がGluからLysへ置換されており、マウス致死性は元のウイルスの約5万倍増加した。また627位にLysを含む変異型ウイルスは、元のウイルスよりもより迅速に重篤な障害をマウスに与えることが組織病理学的分析で明らかとなった。
150	2007/03/06	60947	日本ビーシージー製造	精製ツベルクリン	乳糖	ウシの乳	オランダ、ベルギー、ドイツ、ルクセンブルク	添加物	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1125-1128	3頭のウシの脳幹から調整したTSE単離体をC57BL/6マウスの脳内に投与した。2つは高分子量の非グリコシルPrPres (H型単離体)で、1つは典型的なBSE単離体である。大部分のマウスで感染が起こり、H型単離体に感染したマウスの脳にはH型単離体が、BSE単離体に感染したマウスには典型的BSE単離体が存在することがウエスタンブロットにより確認された。H型単離体に感染したマウスの視床には特徴的な空胞化病変がみられた。このことから、BSE単離体だけでなく、H型単離体も種のバリアを超えて病気を発現させる。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Dev Biol (Basel) 2006; 123: 325-333	sCJDまたはvCJDで死亡した患者の脳標本中のPrP ^{Sc} 量をin vitroアッセイで国際共同研究により評価した。Conformation-Dependent Immunoassayがイムノブロット法によるアッセイより感度が高かった。ヒト二倍体細胞に種々の遺伝子型のプリオンを感染させる試みは今までのところ成功していない。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Cell Tissue Res 2006; 324: 497-505	PrP ^{sc} は主に神経細胞に見られるが、それ以外の分布に関してはほとんど知られていない。足細胞は神経と多くの類似点があるため、ウシの腎臓を用いて、免疫組織化学的方法、R-PCR法およびELISA法により、PrP ^{sc} の発現を調べた。その結果、PrP ^{sc} は選択的に足細胞に局在し、特に糸球体外メサンギア細胞に顕著に発現することが明らかとなった。
												BSE	Vet J 2006; 171: 438-444	BSEに関連する臨床症状を30月齢以上の畜牛1008頭について調べ、死後検査により確定された結果と比較した。臨床的BSE状態は公表されている7つの異なる基準を用いて評価した。死後検査とマッチした997頭中1頭がBSEであった。そのBSE例はヘタリウシ用の2つの症例定義によってのみ同定された。BSEに関連する臨床兆候の定義は多様であり、曖昧である。またBSEの兆候を隠すような他の病気があるとBSEが疑われなくなるかもしれない。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vet Res 2006; 37: 695-703	と畜後すぐに採取した健康なウシの第一胃と結腸内容物を用いて、微生物集合体のPrP ^{Sc} を分解する能力を評価した。スクレーパー(263K株)を感染させたハムスターの脳ホモジネートと一緒に37°C、生理学的嫌気条件下で微生物集合体をインキュベートした。20時間以内に、PrP ^{Sc} は第一胃と結腸の微生物叢の両者によって免疫化学的に検出できないレベルに分解された。特にポリミキシン耐性(大部分がグラム陽性)菌がPrP ^{Sc} 分解能を示した。ウシの胃腸内の微生物叢に消化中にPrP ^{Sc} を分解する能力があることが実証された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Proc Natl Acad Sci U S A 2006; 103: 10759-10764	ヒトPrP ¹²⁹ MVヘテロ接合体トランスジェニックマウスを作成し、患者由来の3つのPRNP129遺伝子型CJDプリオンの伝播性を調べた。vCJDプリオンは100%の感染率を示し、15例中14例で脳内に4型PrP ^{Sc} が検出されたが、プリオン病の臨床症状は見られず、非florid PrP ^{Sc} プラークが脳梁、脳幹、視床で観察された。またBSEプリオンの感染率は少なかった(41例中12例)。ヒトPRNP129ヘテロ接合体はウシBSEよりもヒトvCJDに感染の感受性がより高いことが示唆された。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												BSE	J Gen Virol 2006; 87: 2433-2441	4-6月齢時にBSE感染脳1gまたは100gを経口投与した乳牛を人工授精させ、出産後1週間以内と、授乳期間中10週間間隔で搾乳した。乳サンプルを遠心分離し、Bio-Rad Plateria ELISA法とSeprion-PAGE/Western blot法を用いて、BSEに関連する異常プリオンタンパクを分析した。分析方法の検出限界ではウシの乳の細胞分画から異常プリオンタンパクは検出されなかった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Can J Vet Res 2007; 71: 34-40	異常プリオン蛋白PrPScがコンポスト化により破壊されるかどうかを調べた。ファイバーグラスメッシュバッグにスクレーパーに自然感染したヒツジ由来の組織を入れ、コンポストパイル内に108日(実験1)または148日間(実験2)埋めたところ、実験1では組織残渣や周囲のおがくずからPrPScは検出されなかった。実験2では5例中4例でPrPScが検出された。組織残渣中の微生物18SリボソームDNAを調べたところ、実験1では実験2より多種の微生物が含まれており、グアニンとシトシン含有量が高く、好熱性微生物が優勢であること
151	2007/03/08	60948	東和薬品	塩化マンガン・硫酸亜鉛配合剤	コンドロイチン硫酸ナトリウム	魚類の軟骨抽出物	アメリカ	添加物	有	無	無	ウイルス感染	Emerg Infect Dis 2007; 13: 133-135	サボウイルスはヒト胃腸炎病原体であるが、日本で未処理排水、処理排水および川でサボウイルスを検出した。水検体69例中7例において逆転写PCRで陽性であった。ウイルス夾膜遺伝子の系統発生的分析により、これらの株は4つの遺伝子群に属していた。
152	2007/03/09	60949	阪大微生物病研究会	破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド	ウシの肝臓	ウシの肝臓	日本、オーストラリア、ニュージーランド(現在日本産は使用していない)	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
153	2007/03/09	60950	阪大微生物病研究会	破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド	ビーフハートインフュージョン	ウシの心臓	インド、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
154	2007/03/09	60951	阪大微生物病研究会	破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド ジフテリアトキソイド 沈降破傷風トキソイド	ウシ肉エキス	ウシの肉、骨、脂肪	日本、ブラジル、インド、米国、オーストラリア、ニュージーランド (現在日本、米国、ブラジル、インド産は使用していない)	製造工程	無	無	無			
155	2007/03/09	60952	阪大微生物病研究会	破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド コレラワクチン 沈降破傷風トキソイド	スキムミルク	ウシの乳	米国、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
156	2007/03/09	60953	阪大微生物病研究会	百日せきワクチン 破傷風トキソイド 沈降精製百日せきワクチン 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド コレラワクチン 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン	ポリペプトン	ウシの乳	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
157	2007/03/09	60954	阪大微生物病研究会	発疹チフスワクチン	卵黄囊	発育鶏卵	該当なし(製造中止品目)	製造工程	無	無	無			
158	2007/03/09	60955	阪大微生物病研究会	インフルエンザワクチン インフルエンザHAワクチン	尿膜腔液	発育鶏卵	日本	製造工程	無	無	無			
159	2007/03/13	60956	日本シェーリング	レビパリンナトリウム	レビパリンナトリウム	ブタ小腸粘膜	中華人民共和国	有効成分	無	無	無			
160	2007/03/14	60957	持田製薬	インターフェロン ベータ	トリプシン	ブタ膵臓	—	製造工程	無	無	無			
161	2007/03/14	60958	持田製薬	インターフェロン ベータ	カルボキシペプチダーゼ	ブタ膵臓	米国	製造工程	無	無	無			
162	2007/03/14	60959	持田製薬	インターフェロン ベータ	インターフェロン ベータ	ヒト線維芽細胞	日本	有効成分	無	無	無			
163	2007/03/14	60960	味の素	パルナパリンナトリウム注射液	パルナパリンナトリウム	健康なブタの腸粘膜	中国	有効成分	有	無	無	エルシニア感染	J Med Microbiol 2006; 55: 747-749	<p>散发性エルシニア症の感染経路については、ブタと人との関連性は証明されていない。1995年から2003年にかけて、フィンランドとドイツで下痢のヒト282名の便およびブタ534頭の糞などから得た検体から単離された合計816株のY. enterocolitica 4/O:3を、制限酵素を使ったPFGEで関連性を検討した。その結果、両国共、ヒト由来株のほとんどはブタ由来株と区別ができず、一方、遺伝子型の大部分(182例中178例)は両国で異なっていた。ブタがヒトエルシニア症の重要な起源であることが示唆された。</p>
												ブドウ球菌感染	Ned Tijdschr Geneesk 2006; 150: 1710-1712	<p>最近、オランダで養豚業者がしばしばMRSAを保有することが報告されている。これらのMRSA株はブタでみられるMRSA株と関係がある。ケースコントロール試験の結果、ウシ飼育業者もMRSAキャリアである危険性が明らかとなった。養豚業者が入院する場合は、MRSA陰性と分かるまで、隔離するように勧告する。</p>

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												旋毛虫症	Vet Parasitol 2006; 140: 177-180	イタリアの地中海諸島Sardiniaで、初めて旋毛虫症が発生した。アウトブレイクは2005年に2つの村で起こり、同じブタから作った生のソーセージを食べたヒト11名が感染した。11名全員が旋毛虫症の症状を示し、摂食後48日以内に抗体陽転した。病原体はTrichinella britoviであった。
												インフルエンザ	ProMED-mail20070108.0077	アイオワ州東部でブタインフルエンザ陽性患者1例が確定された。州当局は警戒の必要はないとしている。患者は入院せずに回復した。ヒトからヒトへの感染の証拠はなかった。このウイルスはヒトに感染しにくく、ヒトはかなり抵抗性を持っている。
164	2007/03/15	60961	ファイザー	ダルテパリンナトリウム	ダルテパリンナトリウム	ブタの腸	米国	有効成分	無	無	無			
165	2007/03/15	60962	日本メジフィックス	放射性医薬品基準テクネチウム大凝集人血清アルブミン(99mTc)注射液	テクネチウム大凝集人血清アルブミン(99mTc)	生物学的製剤基準人血清アルブミン	日本	有効成分	無	無	無			
166	2007/03/19	60963	伊藤ライフサイエンス	ダルテパリンナトリウム	ダルテパリンナトリウム	ブタ小腸粘膜	中華人民共和国	有効成分	無	無	無			
167	2007/03/19	60964	日本シェーリング	インターフェロンベータ-1b(遺伝子組換え)	人血清アルブミン	人血液	アメリカ	添加物	有	無	無	HHV-8感染	N Engl J Med 2006; 355: 1331-1338	2000年12月から2001年10月に輸血を受けたウガンダのKampalaの患者1811例のうち、輸血前にヒトヘルペスウイルス8型(HHV-8)血清陰性であった患者991例について追跡調査を行った。そのうち43%(425例)にHHV-8血清陽性血が輸血された。991例中41例にHHV-8セロコンバージョンが起こったが、セロコンバージョンのリスクは陽性血を輸血された患者の方が陰性血を輸血された患者より有意に高かった。
168	2007/03/20	60965	化学及血清療法研究所	人免疫グロブリンヒスタミン加入免疫グロブリン製剤	免疫グロブリン	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	クロストリジウム感染	YOMIURI ONLINE (2007年2月23日読売新聞)	千葉県船橋市立医療センターは22日、同県内の50歳代の男性が、主に牛の病気の原因とされる「気腫菌」に感染し、死亡したことを明らかにした。人への感染が報告されたのは世界初である。気腫菌は傷口などから動物の体内に入り、筋肉が壊死する「気腫」を発症させる。同センターは、「気腫菌は人には感染しないというのがこれまでの常識だった。詳しい感染経路を調べるのが今後の課題」としている。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
169	2007/03/20	60966	化学及血清療法研究所	ウイルス病治療血清	血清	ウサギ血液		製造工程	無	無	無			
170	2007/03/20	60967	化学及血清療法研究所	乾燥はぶウマ抗毒素	はぶウマ抗毒素	ウマ血液	日本	有効成分	無	無	無			
171	2007/03/20	60968	化学及血清療法研究所	乾燥まむしウマ抗毒素	まむしウマ抗毒素	ウマ血液	日本	有効成分	無	無	無			
172	2007/03/20	60969	化学及血清療法研究所	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリアトキソイド ウイルス病治療血清 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン	血清	ウマ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
173	2007/03/20	60970	化学及血清療法研究所	インフルエンザHAワクチン インフルエンザワクチン	発育鶏卵	ニワトリ発育鶏卵	日本	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザ	宮崎県農政水産部 平成19年1月13、16、18日 プレスリリース	平成19年1月12日、宮崎県宮崎郡清武町の肉用種鶏飼養農場において、飼養鶏からA型鳥インフルエンザウイルスと思われるウイルスが分離された。13日、動物衛生研究所での検査の結果、当該ウイルスがH5N1亜型のA型インフルエンザであることが確認され、防疫対応が決定された。18日、病原性判定試験の結果、強毒タイプのウイルスであることが判明した。
174	2007/03/20	60971	化学及血清療法研究所	乾燥はぶウマ抗毒素 乾燥まむしウマ抗毒素 乾燥ガスエソウマ抗毒素 ガスエソウマ抗毒素 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥ボツリヌスウマ抗毒素 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン	ペプシン	ブタ胃	米国	製造工程	無	無	無			
175	2007/03/20	60972	化学及血清療法研究所	ウイルス病治療血清	肝臓	モルモット肝臓		製造工程	無	無	無			
176	2007/03/20	60973	化学及血清療法研究所	ウイルス病治療血清	血液	モルモット血液		製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
177	2007/03/20	60974	化学及血清療法研究所	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 破傷風トキソイド	ハートエキス	クジラ心臓	捕鯨国:日本	製造工程	無	無	無			
178	2007/03/20	60975	化学及血清療法研究所	乾燥はぶウマ抗毒素	はぶ毒	ハブ毒素	日本	原材料	無	無	無			
179	2007/03/20	60976	化学及血清療法研究所	乾燥まむしウマ抗毒素	まむし毒	マムシ毒素	日本	原材料	無	無	無			
180	2007/03/20	60977	化学及血清療法研究所	乾燥日本脳炎ワクチン 日本脳炎ワクチン	脳	マウス脳	日本	製造工程	無	無	無			
181	2007/03/19	60978	メルク	ダルテパリンナトリウム	ダルテパリンナトリウム	ブタ小腸	中国	有効成分	無	無	無			
182	2007/03/20	60979	フジモト・ダイアグノスティックス	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	日本白色種家兔、皮膚抽出液	中国	有効成分	有	無	無	野兔病	Jpn J Infect Dis 2006; 59: 391-393	トルコのトラキア地域における野兔病流行について調べた。Demirkoy村では2005年に流行したが、村民400人中266人が採血され、患者、家畜および水源の検査が行われた。患者10例中7例が口腔咽頭型で、3例が無症候性であった。培養では野兔病に陰性であったが、PCR検査ではリンパ節吸引物1例と井戸水1例で陽性であった。数例の家畜は低レベルの特異抗体を有した。付近のげっ歯類の増加、野兔への暴露、感染した井戸水の飲用は危険因子として同定され、治療および予防措置がとられた。
183	2007/03/22	60980	北里研究所	コレラワクチン	ウシ心臓抽出物	ウシ心臓	米国、オーストラリア	製造工程	無	無	無			
184	2007/03/22	60981	北里研究所	コレラワクチン 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン	カザミノ酸	ウシ乳	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	無	無	無			
185	2007/03/22	60982	北里研究所	コレラワクチン	ビーフエキストラクト	ウシ筋肉	オーストラリア	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
186	2007/03/22	60983	北里研究所	コレラワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン	スキムミルク	ウシ乳	米国	製造工程	無	無	無			
187	2007/03/22	60984	北里研究所	コレラワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン	ペプトン	ウシ乳	中国、 ニュージー ランド、ポー ランド	製造工程	無	無	無			
188	2007/03/22	60985	北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	ラクトアルブ ミン水解物	ウシ乳	オーストラ リア、ニュー ジーランド	製造工程	無	無	無			
189	2007/03/22	60986	北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	エリスロマイ シンラクトビ オン酸塩	ウシ乳	ニュージー ランド、カナ ダ、米国	製造工程	無	無	無			
190	2007/03/22	60987	北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	ウシ胎児血 清、新生仔 牛血清	ウシ血液	ニュージー ランド、オー ストラリア	製造工程	無	無	無			
191	2007/03/22	60988	北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	乳糖水和物	ウシ乳	ニュージー ランド	添加物	無	無	無			
192	2007/03/22	60989	北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	コレステロー ル	ヒツジ毛	オーストラ リア、ニュー ジーランド	製造工程	無	無	無			
193	2007/03/22	60990	北里研究所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド	ヒツジ血清	ヒツジ血液	米国	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用指遣	感染症(PT)	出典	概要
194	2007/03/22	60991	北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	トリブシン	ブタ豚臓	米国、カナダ	製造工程	有	無	無	スピロヘータ感染	Emerg Infect Dis 2006; 12: 869-870	様々な地域のブタ、ニワトリ、ヒト等から分離された B.pilosicoli 分離株107株と B. aalborgi 基準株 (NCTC11492T)との関連性を調査するため、多座位酵素電気泳動(MLEE)解析を実施した。構成酵素の特徴が同一である分離株を1つの電気泳動型(ET)に群化した。その結果、B. pilosicoli 分離株は80ETに分類され、B. aalborgi とは明確に区別された。一般的に、起源の宿主種によって群化せず、特定の種に由来する分離株は系統樹全体に分布していた。
195	2007/03/22	60992	北里研究所	インフルエンザHAワクチン インフルエンザワクチン	発育鶏卵	発育鶏卵	日本	製造工程	有	無	無	スピロヘータ感染	Emerg Infect Dis 2006; 12: 869-870	60991に同じ
												鳥インフルエンザ	Proc Natl Acad Sci USA 2006; 103: 16936-16941	南中国の市場調査による最新のウイルス学的及び疫学的所見によると、H5N1型鳥インフルエンザが様々な家禽において流行している。遺伝子及び抗原の分析から、2005年の後半以降、家禽において新たなH5N1型ウイルスの系統(福建株)が出現し、優勢となり、中国での最近のヒト感染を引き起こしていることが明らかになった。既に香港、ラオス、マレーシア、タイへ伝播している。市場の家禽におけるH5N1抗体陽転が低いことから、家禽へのワクチン接種が福建株系統の選択を助長している可能性が示唆された。
												鳥インフルエンザ	農林水産省 プレスリリース 平成19年 2月14日	宮崎県日向市、新富町、岡山県高梁市の鶏舎において高病原性鳥インフルエンザH5N1型が発生した。第3回高病原性鳥インフルエンザ感染経路究明チーム検討会では、国内へのウイルスの持ち込みについて、渡り鳥が関与している可能性を想定した。また、鶏舎内へのウイルスの持ち込みは、野生生物(野鳥、ネズミなど)が関与している可能性があることから、発生農場周辺の野生生物に関する調査や今回分離されたウイルスを用いて、アイガモ、マウス、ラットなどを用いた感受性(接種)試験を実施する必要がある。
196	2007/03/22	60993	北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	ニワトリ胚初代培養細胞	孵化鶏卵	日本、米国	製造工程	有	無	無	スピロヘータ感染	Emerg Infect Dis 2006; 12: 869-870	60992に同じ
												鳥インフルエンザ	Proc Natl Acad Sci USA 2006; 103: 16936-16941	60992に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	農林水産省 プレスリリース 平成19年2月14日	60992に同じ
197	2007/03/22	60994	北里研究所	日本脳炎ワクチン	マウス脳乳液	マウス脳	日本	製造工程	無	無	無			
198	2007/03/22	60995	北里研究所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド	ウマ血清	ウマ血液	米国	製造工程	無	無	無			
199	2007/03/22	60996	北里研究所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降破傷風トキソイド	ウマ脱繊維素血液	ウマ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
200	2007/03/23	60997	田辺製薬	インプリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ血液	米国、カナダ	製造工程	有	無	有	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS Pathogens 2006; 2: 956-963	最近、大規模なスクリーニングによって、従来とは異なるPrPresがウシにおいて発見された。これらもまた別のプリオン株を代表するかを調べるため、H型と呼ばれる高分子量のウシの単離体を、ウシまたはヒツジのPrPを発現するトランスジェニックマウスに接種した。全てのマウスは神経学的症状を呈し、この株に感染し、感染性プリオンの新規の株であることが示された。この病原体は、BSE病原体およびヒツジスクレイピー病原体とは明らかに異なる特有の神経病理学的特徴を示した。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	CDC 2006年11月29日	米国で3例目のvCJD症例が確定された。サウジアラビアで生まれ育った若年成人で、2005年後半から米国に住んでいる。2006年11月下旬にアデノイドおよび脳生検により確定診断された。この患者に輸血歴やヨーロッパ訪問歴はなく、子供の頃にサウジアラビアでBSE感染牛製品を摂取したことが原因と思われる。この患者に供血歴はなく、公衆衛生学的調査により、米国住民へ伝播の危険はないと同定された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 368: 2226-2230	ヒト濃縮赤血球に混入した脳由来の感染性物質を約4 log ID50減らすことのできるアフィニティ樹脂L13と同等能力のL13Aについて、血中に存在する内因性TSE感染性物質の除去能力を評価した。スクレイピーに感染させたハムスターの全血は白血球除去によって感染性の72%が除去された。99匹中15匹が白血球除去した全血に感染したが、更に各々の樹脂を通過して得られた最終産物を接種された96匹又は100匹はいずれも発症しなかった。樹脂によって内因性TSE感染性物質が除去されることが示された。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Health Protection Report 1(3) 2007年1月19日	英国で4例目の輸血関連vCJD可能性例が診断された。この症例は供血後約17ヶ月でvCJDを発症したドナーからの赤血球輸血を受け、8年半後にvCJDを呈した。このドナーは3例目の輸血関連vCJD症例へのドナーでもある。4例目の症例はプリオン蛋白遺伝子のコドン129がメチオニンホモ体であった。この患者は生存している。
												BSE	FDA News; P07-04, 2007年1月11日	FDAはBSEセーフガードとして医薬品や医療機器で、特定のウシ原料を禁止することを提案した。禁止される原料は、30月齢以上のウシの脳、頭蓋骨、眼および脊髄、全てのウシの扁桃腺および小腸の一部、ヘタリウシの全ての部位、検査を合格していないウシの全ての部位などである。
201	2007/03/23	60998	田辺製薬	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシリボプロテイン	ウシ血液	米国	製造工程	有	無	有	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS Pathogens 2006; 2: 956-963	60997に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	CDC 2006年11月29日	60997に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 368: 2226-2230	60997に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Health Protection Report 1(3) 2007年1月19日	60997に同じ
												BSE	FDA News; P07-04, 2007年1月11日	60997に同じ
202	2007/03/23	60999	田辺製薬	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシアポトランスフェリン	ウシ血液	米国、カナダ	製造工程	有	無	有	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS Pathogens 2006; 2: 956-963	60997に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	CDC 2006年11月29日	60997に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 368: 2226-2230	60997に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Health Protection Report 1(3) 2007年1月19日	60997に同じ
												BSE	FDA News; P07-04, 2007年1月11日	60997に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
203	2007/03/23	61000	田辺製薬	インプリキシマブ(遺伝子組換え)	マウス骨髄腫由来細胞	マウス骨髄腫		製造工程	有	無	有	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS Pathogens 2006; 2: 956-963	60997に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	CDC 2006年11月29日	60997に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 368: 2226-2230	60997に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Health Protection Report 1(3) 2007年1月19日	60997に同じ
												BSE	FDA News: P07-04, 2007年1月11日	60997に同じ
204	2007/03/23	61001	光製薬	ダルテパリンナトリウム注射液	ダルテパリンナトリウム	ブタの小腸粘膜	中国	有効成分	有	無	無	感染	ProMED-mail20060903.2508 ProMED-mail20060908.2549 OIE Disease Information 19(38) 2006年9月21日 ProMED-mail20061129.3387 ProMED-mail20070114.0185	2006年6月末以降、中国の6つの省で、高熱、皮膚の発赤、呼吸促進を特徴とする疾患で死亡した。調査の結果、古典的ブタ熱、ブタ生殖器および呼吸器症候群、ならびにブタサーコウイルスの混合感染に関連する事が明らかとなった。
												レンサ球菌感染	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1203-1208 PLoS Med 2006; 3: e151	2005年7-8月に中国四川省で発生したStreptococcus suis serotype 2 (SS2)感染のアウトブレイクについて調べた。99の分離株のうち97株がシークエンスタイプ7であった。ヒト感染患者の臨床的、病理学的特徴は典型的な連鎖球菌中毒ショック症候群であった。2005年の流行ならびに1998年に江蘇省で流行した時のヒトおよびブタの検体から単離した菌の遺伝子型を調べたところ、両者は共通した遺伝子型を有していた。またミニブタでの感染実験で強い毒性を示した。
												口蹄疫	OIE Disease Information 19(46) 2006年11月16日	中国における口蹄疫のFollow-up report No. 14 (2006年10月17日から11月16日まで)。病因の同定-口蹄疫ウイルスセロタイプアジア1。新規アウトブレイクの詳細-Chongqing省Wanzhou郡: ウシ疑い例13例、症例3例、処分13例。ブタ疑い例72例、処分72例。Gansu省Yongdeng郡: ウシ疑い例181例、症例9例、処分181例。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												口蹄疫	ProMED-mail20070117.0224	中国(香港)Yueng Longの養豚場における口蹄疫のアウトブレイク後に、Agriculture, Fisheries & Conservation Departmentは養豚業者に対して良好な衛生を保つよう要請した。現在のところ地域のブタにおいて異常な死亡は観察されていない。
												口蹄疫	OIE Disease Information 20(5) 2007年2月1日	中国における口蹄疫-Follow-up report No.1:開始日-2007年1月15日、アウトブレイクの確定日-2007年1月17日、報告日-2007年1月30日、前回の発生日-2006年11月、病因-口蹄疫ウイルス(血清型Asia1)、新たなアウトブレイク-Xinjiang, Xinheの村(アウトブレイクの開始日2007年1月23日):ウシにおいて疑い例25例、処分25例、ブタにおいて疑い例48例、処分48例、感染源-不明もしくは結論に到達していない。
205	2007/03/23	61002	田辺製薬	インプリキシマブ(遺伝子組換え)	インプリキシマブ(遺伝子組換え)		米国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド	有効成分	有	無	有	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS Pathogens 2006; 2: 956-963	60997に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	CDC 2006年11月29日	60997に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 368: 2226-2230	60997に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Health Protection Report 1(3) 2007年1月19日	60997に同じ
												BSE	FDA News; P07-04, 2007年1月11日	60997に同じ
206	2007/03/23	61003	田辺製薬	インプリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシ蛋白加水分解物	ウシ脾臓、ウシ血液	米国	製造工程	有	無	有	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS Pathogens 2006; 2: 956-963	60997に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	CDC 2006年11月29日	60997に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Lancet 2006; 368: 2226-2230	60997に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Health Protection Report 1(3) 2007年 1月19日	60997に同じ
												BSE	FDA News; P07-04, 2007年1月11日	60997に同じ
207	2007/03/23	61004	田辺製薬	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	インスリン	ウシ膵臓、ヒ トインスリン	米国、カナ ダ、オースト ラリア、 ニュージー ランド	製造工程	有	無	有	異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	PLoS Pathogens 2006; 2: 956-963	60997に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	CDC 2006年11月29 日	60997に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Lancet 2006; 368: 2226-2230	60997に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Health Protection Report 1(3) 2007年 1月19日	60997に同じ
												BSE	FDA News; P07-04, 2007年1月11日	60997に同じ
208	2007/03/23	61005	田辺製薬	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシ血清ア ルブミン	ウシ血液	米国、カナ ダ	製造工程	有	無	有	異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	PLoS Pathogens 2006; 2: 956-963	60997に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	CDC 2006年11月29 日	60997に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Lancet 2006; 368: 2226-2230	60997に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Health Protection Report 1(3) 2007年 1月19日	60997に同じ
												BSE	FDA News; P07-04, 2007年1月11日	60997に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
209	2007/03/23	61006	ベネシス	①②③人血清アルブミン ④乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子 ⑤乾燥濃縮人血液凝固第Ⅸ因子	人血清アルブミン	人血液	①②④⑤日本、 ③米国	①②③有効成分、 ④⑤添加物	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry, (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	古典的CJDの潜伏期間は38.5年であり、vCJDの潜伏期間も非常に長いことが示唆されている。また、未確認ではあるが恐らくかなりの数の血液ドナーが、欧州におけるBSE激増中にフランスで感染した可能性がある。これらのことから、FDAは1980年以降フランスで血液又は血液成分の輸血を受けた者からの供血を無期限に停止するという予防策の導入をガイダンス案として発表した。
												E型肝炎	肝臓 2006; 47: 384-391	わが国のE型肝炎の実態を明らかにする目的で、全国から総数254例のE型肝炎ウイルス感染例を集め、これを解析した。その結果、以下の知見を得た。1)HEVは全国に浸透している。2)感染者の多くは中高年(平均年齢約50歳)で、男性に多い。3)我国に土着のHEVの遺伝型は3型と4型である。4)年齢と肝炎重症度に相関がある。5)遺伝型は4型が顕在化率も重症化率も高い。6)発症時期が無季節性である。7)感染経路は、動物由来食感染が約30%、輸入感染が8%、輸血感染が2%、不明が約60%であった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Future Virol 2006; 1: 659-674	血液製剤の製造工程におけるプリオンの除去に関する総説である。プリオン除去のための個々の製造工程は、実際の製造条件を実験室での条件にスケールダウンさせ、確立されているスクレイパー株をモデル系として用いて通常は評価されている。しかしながら、血液中のプリオンタンパクの存在形態が不明なので、評価実験のためのスパイク材料としてのプリオンの調製方法は注意深く考慮しなければならない。現在のところ、エタノール分画、PEG分画、カラムクロマトグラフィー、ウイルス除去膜およびデプスフィルターでの濾過が有効とされている。
												ウイルス感染	J Infect Dis 2006; 194: 1276-1282	ヒトポカウイルス感染の疫学的プロフィールおよび臨床的特徴を調べるため、2歳未満の小児のヒトポカウイルスを調査した。直接的免疫蛍光試験でRSV(respiratory syncytial virus)、パラインフルエンザウイルス(1-3型)、インフルエンザAおよびB、並びにアデノウイルスが陰性であった425名中22名(5.2%)がPCRでヒトポカウイルス陽性であり、無症候であった96名では陽性者はゼロであった。この試験期間中、2つの異なる遺伝型が見られた。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文獻	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	PLoS Pathogens 2006; 2: 956-963	最近、大規模なスクリーニングによって、従来とは異なるPrPresがウシにおいて発見された。これらもまた別のプリオン株を代表するかを調べるため、H型と呼ばれる高分子量のウシの単離体を、ウシまたはヒツジのPrPを発現するトランスジェニックマウスに接種した。全てのマウスは神経学的症状を呈し、この株に感染し、感染性プリオンの新規の株であることが示された。この病原体は、BSE病原体およびヒツジスクレイピー病原体とは明らかに異なる特有の神経病理学的特徴を示した。
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	FDA/GBER 2006年 10月15日 FDA/TSEAC Meeting 2006年12 月15日	FDAは、米国で認可されたヒト血漿由来第Ⅷ凝固因子製剤 (pdFVIII) の使用に係る潜在的vCJDリスク評価草案を作成した。FDAの評価モデルの結果は、血友病Aおよびフォンウィルブランド病患者に使用されるpdFVIII製剤の、vCJD感染リスクは非常に低いが、ゼロではないかもしれないことを示唆した。またTSEAC (TSE Advisory Committee) は、pdFVIII製品中のTSE除去の適切な閾値について議論した。TSE除去レベルにより、vCJD感染リスクは大きく変動することが示された。
												結核	NIKKEI NET いぎ いぎ健康 2006年 12月5日	既存の治療薬がほとんど効かず、世界保健機関 (WHO) が警戒を呼び掛けている「超多剤耐性」の結核菌が、国内でも入院患者の0.5%から検出されたことが、結核研究所の調査で明らかになった。2002年6月から11月にかけて国内99の結核治療施設の入院患者3122人から採取した結核菌を分析した結果である。検出例の半数は薬の服薬歴がなかったことから、他の患者から感染した可能性が高い。
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	CDC 2006年11月29 日	米国で3例目のvCJD症例が確定された。サウジアラビアで生まれ育った若年成人で、2005年後半から米国に住んでいる。2006年11月下旬にアデノイドおよび脳生検により確定診断された。この患者に輸血歴やヨーロッパ訪問歴はなく、子供の頃にサウジアラビアでBSE感染牛製品を摂取したことが原因と思われる。この患者に供血歴はなく、公衆衛生学的調査により、米国住民への伝播の危険はないと同定された。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												アルツハイマー型認知症	Science 2006; 313: 1781-1784	アルツハイマー病患者、または β -アミロイド前駆体タンパク質(APP)発現トランスジェニックマウスから得たアミロイド- β (A β)含有脳抽出物の希釈液を大脳内に注射すると、APPトランスジェニックマウスに、時間と濃度に依存した大脳内の β -アミロイドーシスとそれに伴う病変を誘発した。脳抽出物のシーディング活性は、A β 免疫除去、タンパク変性、またはA β を宿主に免疫することによって、低下または消失した。外因性に誘発させたアミロイドーシスの表現型は、宿主と誘導物質の両者に依存した。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	LANCET 2006; 368: 2226-2230	ヒト濃縮赤血球に混入した脳由来の感染性物質を約4 log ID50減らすことのできるアフィニティ樹脂L13と同等能力のL13Aとについて、血中に存在する内因性TSE感染性物質の除去能力を評価した。スクレイバーに感染させたハムスターの全血は白血球除去によって感染性の72%が除去された。99匹中15匹が白血球除去した全血に感染したが、更に各々の樹脂を通過して得られた最終産物を接種された96匹又は100匹はいずれも発症しなかった。樹脂によって内因性TSE感染性物質が除去されることが示された。
												トリパノソーマ症	FDA News P06-198 2006年12月13日	米国FDAは2006年12月13日、重篤且つ致死性の寄生虫感染症のシャガス病を引き起こす血液寄生虫について血液ドナーをスクリーニングする新しい検査を承認した。この試験はORTHO T. cruzi ELISA Test Systemと呼ばれ、trypanosoma cruzi抗体を検出するもので、このような検査では初めてFDAに承認されたものである。この検査は、全血の供血者のスクリーニングに加えて、臓器、細胞及び組織ドナーからの血漿及び血清をスクリーニングするのに用いられる。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2006; 12(44): 4-5	伝達性海綿状脳症(TSE)諮問委員会が2006年12月15日に公開で開催され、ヒト血漿由来抗血友病因子(FVIII)製剤におけるvCJDへの潜在的曝露に関するFDAのリスク評価ならびに血漿由来FVIII製造におけるTSEクリアランスのレベルについて討論された。このリスク評価に対して諮問委員会は、報告が強制でないことや、最終製品のリスク減少を推定をする際に用いたエビデンスに対して懸念を表明した。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												梅毒	Lancet 2007; 369: 132-138	中国の性感染症サーベイランスシステム及び監視サイトネットワークからの症例報告データを収集し評価した。中国における報告された梅毒の全症例発生率は、1993年には100,000人あたり0.2例であったが、2005年には、第一期及び第二期梅毒だけで100,000人あたり5.7例であった。先天的な梅毒の発生率は、1991年は100,000例の出生児あたり0.01症例であったが、2005年には100,000例の出生児あたり19.68症例まで、年平均71.9%の割合で大きく増加した。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Statement 2007年1月18日	輸血と関係した新たなvCJD疾患(4例目)が、最近診断された。この症例は後にvCJDを発症したドナーからの輸血を受けてから約9年後にvCJDと診断された。同じ供血者からの輸血は以前に同定された1例とも関係していた。4例目の患者は以前からvCJDに暴露した可能性を知らされていた。4例目のvCJD感染症例により、輸血を介したヒトの間におけるvCJD感染リスクについての懸念が高まっている。4症例は全て、成分輸血に関係したものであり、血漿分画製剤による治療に関連した症例は今まで報告されていない。
210	2007/03/23	61007	ベネシス	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	血液凝固第Ⅷ因子	人血液	日本	有効成分	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	61006に同じ
												E型肝炎	肝臓 2006; 47: 384-391	61006に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Future Virol 2006; 1: 659-674	61006に同じ
												ウイルス感染	J Infect Dis 2006; 194: 1276-1282	61006に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS Pathogens 2006; 2: 956-963	61006に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	FDA/CBER 2006年10月15日 FDA/TSEAC Meeting 2006年12月15日	61006に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 精量	感染症(PT)	出典	概要
												結核	NIKKEI NET いき いき健康 2006年 12月5日	61006に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	CDC 2006年11月29 日	61006に同じ
												アルツハイ マー型認知症	Science 2006; 313: 1781-1784	61006に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	LANCET 2006; 388: 2226-2230	61006に同じ
												トリパノソーマ 症	FDA News P06- 198 2006年12月13 日	61006に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	AABB Weekly Report 2006; 12(44): 4-5	61006に同じ
												梅毒	Lancet 2007; 389: 132-138	61006に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	英国保健省 Press Statement 2007年1 月18日	61006に同じ
211	2007/03/23	61008	ベネシス	①②ポリエチレングリコール処理人免疫 グロブリン ③人免疫グロブリン	人免疫グロ ブリンG	人血液	①日本、 ②③米国	有効成分	有	有	有	異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	61006に同じ
												E型肝炎	肝臓 2006; 47: 384-391	61006に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Future Virol 2006; 1: 659-674	61006に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	J Infect Dis 2006; 194: 1276-1282	61006に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	PLoS Pathogens 2006; 2: 956-963	61006に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	FDA/CBER 2006年 10月15日 FDA/TSEAC Meeting 2006年12 月15日	61006に同じ
												結核	NIKKEI NET いき いき健康 2006年 12月5日	61006に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	CDC 2006年11月29 日	61006に同じ
												アルツハイ マー型認知症	Science 2006; 313: 1781-1784	61006に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	LANCET 2006; 368: 2226-2230	61006に同じ
												トリパノソーマ 症	FDA News P06- 198 2006年12月13 日	61006に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	AABB Weekly Report 2006; 12(44): 4-5	61006に同じ
												梅毒	Lancet 2007; 369: 132-138	61006に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クローン フェルト・ヤコ ブ病	英国保健省 Press Statement 2007年1 月18日	61006に同じ
212	2007/03/26	61009	武田薬品 工業	日本脳炎ワクチン 乾燥日本脳炎ワクチン	マウス脳	マウス脳	日本	製造工程	無	無	無			
213	2007/03/27	61010	萬有製薬	肺炎球菌ワクチン	肺炎球菌莢 膜ポリサッカ ライド	肺炎球菌莢 膜	米国	有効成分	無	無	無			
214	2007/03/27	61011	萬有製薬	肺炎球菌ワクチン	リボヌクレ アーゼ	ウシ臍臓	米国、カナ ダ	製造工程	無	無	無			
215	2007/03/27	61012	萬有製薬	肺炎球菌ワクチン	デオキシリ ボヌクレアー ゼ	ウシ臍臓	米国、カナ ダ	製造工程	無	無	無			
216	2007/03/27	61013	萬有製薬	肺炎球菌ワクチン	トリプシン	ウシ臍臓	米国、カナ ダ	製造工程	無	無	無			
217	2007/03/27	61014	萬有製薬	肺炎球菌ワクチン	スキムミルク	ウシ乳	米国	製造工程	無	無	無			
218	2007/03/27	61015	萬有製薬	肺炎球菌ワクチン	ハートイン フュージョン 培地	ウシ心臓、ウ シ骨格筋、ウ シ脂肪細胞、 ウシ骨髄、ウ シ結合組織	米国、カナ ダ、オースト ラリア	製造工程	無	無	無			
219	2007/03/27	61016	萬有製薬	肺炎球菌ワクチン	ウサギ脱繊 雑血液	ウサギ血液	米国、カナ ダ	製造工程	無	無	無			
220	2007/03/27	61017	ジェンサイ ム・ジャパ ン	アガルシダーゼ ベータ(遺伝子組換え)	アガルシ ダーゼ ベータ(遺伝 子組換え)	遺伝子組換え チャイニーズ ハムスター卵 巣細胞		有効成分	無	無	無			
221	2007/03/27	61018	ジェンサイ ム・ジャパ ン	アガルシダーゼ ベータ(遺伝子組換え)	ドナー子ウ シ血清	ドナー子ウシ 血液	ニュージー ランド	製造工程	無	無	無			
222	2007/03/27	61019	日本臓器 製薬	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚 抽出液	ワクシニアウ イルス接種 家兔炎症皮 膚抽出液	ワクシニアウ イルス接種家 兔炎症皮膚 抽出液	日本	有効成分	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
223	2007/03/27	61020	日本臓器製薬	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	カゼイン性ベプトン	ウシ乳	ポーランド、中国、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
224	2007/03/27	61021	日本臓器製薬	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	カゼイン性ベプトン	ブタ臓臓	日本、カナダ	製造工程	無	無	無			
225	2007/03/27	61022	日本臓器製薬	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	漿尿膜	発育鶏卵	日本	製造工程	無	無	無			
226	2007/03/27	61023	日本臓器製薬	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	ウサギ皮膚	ウサギ	日本	製造工程	無	無	無			
227	2007/03/27	61024	日本製薬	乾燥ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン	ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリンG	人血液	日本	有効成分	有	無	無	HIV	日刊薬業 第12105号 平成18年9月6日	日本人初のHIV-2感染者が確定された。男性は過去に西アフリカに渡航し、現地で輸血した経験があるため、これが感染経路と見られている。厚生省は、2型の検査も確実に行い、検査漏れがないよう、各都道府県に通知した。
												異型クローンフェルト・ヤコブ病	厚生労働省 平成18年8月24日	平成18年8月23日に開催された薬事・食品衛生審議会血液事業部会安全技術調査会において、ヒト胎盤エキス(プラセンタ)注射剤使用者に対する献血制限措置を日本赤十字社が実施することが了承された。
												マラリア	AABB Weekly Report 2006; 12(32): 10	2006年9月8日付けのKorea Timesによると、交通事故後に輸血を受け、その後マラリアと診断された患者が、疑わしい血液の流通を防ぐことができなかった韓国赤十字を批判している。韓国赤十字は状況を知らず、何の行動も起こさず、その結果、不適切な血液製品が流通し続けたとのことである。輸血によるマラリア感染で既に1名の患者が死亡している。
												HHV-8感染	N Engl J Med 2006; 355: 1331-1338	2000年12月から2001年10月に輸血を受けたウガンダのKampalaの患者1811例のうち、輸血前にヒトヘルペスウイルス8型(HHV-8)血清陰性であった患者991例について追跡調査を行った。そのうち43%(425例)にHHV-8血清陽性血が輸血された。991例中41例にHHV-8セロコンバージョンが起こったが、セロコンバージョンのリスクは陽性血を輸血された患者の方が陰性血を輸血された患者より有意に高かった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Statement 2007年1月18日	英国で輸血と関係した新たなvCJD症例(4例目)が、最近診断された。この症例は後にvCJDを発症したドナーからの輸血を受けた約9年後にvCJDと診断された。同じ供血者からの輸血は以前に同定されたvCJD1例とも関係していた。4例目の患者は以前からvCJDに暴露した可能性を知らされていた。4例目のvCJD感染症例により、輸血を介したヒトの間におけるvCJD感染リスクについての懸念が高まっている。4症例は全て、成分輸血に関係したものであり、血漿分画製剤による治療に関連した症例は今まで報告されていない。
228	2007/03/27	61025	日本製薬	乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ	人アンチトロンビンⅢ	人血液	日本	有効成分	有	無	無	HIV	日刊薬業 第12105号 平成18年9月6日	61024に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省 平成18年8月24日	61024に同じ
												マラリア	AABB Weekly Report 2006; 12(32): 10	61024に同じ
												HHV-8感染	N Engl J Med 2006; 355: 1331-1338	61024に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Statement 2007年1月18日	61024に同じ
229	2007/03/27	61026	日本製薬	トロンビン	トロンビン	人血液	日本	有効成分	有	無	無	HIV	日刊薬業 第12105号 平成18年9月6日	61024に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省 平成18年8月24日	61024に同じ
												マラリア	AABB Weekly Report 2006; 12(32): 10	61024に同じ
												HHV-8感染	N Engl J Med 2006; 355: 1331-1338	61024に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Statement 2007年1月18日	61024に同じ
230	2007/03/27	61027	日本製薬	人血清アルブミン(20%) 加熱人血漿たん白 人血清アルブミン(25%) 人血清アルブミン(5%)	人血清アルブミン	人血液	日本	有効成分	有	無	無	HIV	日刊薬業 第12105号 平成18年9月6日	61024に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省 平成18年8月24日	61024に同じ
												マラリア	AABB Weekly Report 2006; 12(32): 10	61024に同じ
												HHV-8感染	N Engl J Med 2006; 355: 1331-1338	61024に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省 Press Statement 2007年1月18日	61024に同じ
231	2007/03/27	61028	持田製薬	トロンピン	トロンボプラスチン	ウシ肺	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Proc Natl Acad Sci USA 2007; 104: 1965-1970	スクレイパー-22L株に感染した神経芽細胞腫細胞およびFUクロイツフェルトヤコブ病病原体に感染した視床下部GT細胞は直交配列で高密度な25nmウイルス様粒子を示した。この粒子は膜に囲まれた不完全結晶で、A型レトロウイルス粒子クラスターや異常PrP原線維とは別に存在し、形態学的にも異なっていた。またPrP抗体でラベルされず、ホルボールエステル処理で増加しなかったことから、プリオンではなかった。この粒子は後期PrP脳病変を誘発するTSE原因プリオンである可能性がある。
232	2007/03/27	61029	持田製薬	トロンピン	トロンピン	ウシ血液	ニュージーランド、オーストラリア	有効成分	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Proc Natl Acad Sci USA 2007; 104: 1965-1970	61028に同じ
233	2007/03/27	61030	持田製薬	下垂体性性腺刺激ホルモン(hMG)	下垂体性性腺刺激ホルモン(hMG)	ヒト(閉経期婦人)尿	中国	有効成分	有	無	無	ウイルス感染	CBS News/Healthwatch 2006年8月22日	中国Hunan省中部のChenzhou市でヒトボカウイルス感染の6症例(全て1歳以下の乳幼児)が報告された。これは新たに同定されたウイルスによる中国での最初の感染例である。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												HIV	asahi.com 健康 2006年9月4日	日本人で初めてHIV2型の感染者が確認された。この男性は過去に西アフリカで輸血を受けたことがあり、このときの輸血が感染源とみられている。厚生労働省は1型だけでなく、2型についても検査体制を徹底するよう通知した。
												HHV-8感染	N Engl J Med 2006; 355: 1331-1338	2000年12月から2001年10月に輸血を受けたウガンダのKampalaの患者1811例のうち、輸血前にヒトヘルペスウイルス8型(HHV-8)血清陰性であった患者991例について追跡調査を行った。そのうち43%(425例)にHHV-8血清陽性血が輸血された。991例中41例にHHV-8セロコンバージョンが起こったが、セロコンバージョンのリスクは陽性血を輸血された患者の方が陰性血を輸血された患者より有意に高かった。
												クロストリジウム感染	第55回日本感染症学会東日本地方会 総会 2006年10月 26-27日 016	胸部打撲後、心肺停止、混合性アシドーシス、胸部筋組織の破壊像を伴う著明な気腫などを呈し、死亡した58歳男性の、死亡直前に採取された皮下気腫穿刺液を調べたところ、多数の偏性嫌気性有芽胞グラム陽性桿菌が検出された。RNA遺伝子解析の結果、Clostridium chauvoeiと同定された。本菌は複数の同定キットでは明らかにできなかった。本菌は獣医学領域の病原菌として知られているが、ヒト感染症からの分離は初めてである。
												異型クローイツフェルト・ヤコブ病	CDC 2006年11月29日	米国で3例目のvCJD症例が確定された。サウジアラビアで生まれ育った若年成人で、2005年後半から米国に住んでいる。2006年11月下旬にアデノイドおよび脳生検により確定診断された。この患者に輸血歴やヨーロッパ訪問歴はなく、子供の頃にサウジアラビアでBSE感染牛製品を摂食したことが原因と思われる。この患者に供血歴はなく、公衆衛生学的調査により、米国住民へ伝播の危険はないと同定された。
												ウエストナイルウイルス	El Tribuno Salta 2006年12月27日	アルゼンチン国内で初のウエストナイルウイルス感染例が確認された。ゴールドバ州で1件、チャコ州で3件あり、感染者10名のうち2名がウエストナイル熱を発症する可能性がある。ゴールドバ州での患者はここ数年、海外への渡航歴はないことから、地元において感染したものと推測される。
												チクングニヤウイルス感染	毎日新聞 2007年1月24日 東京夕刊	厚生労働省は24日、スリランカから帰国した30歳代の女性が、チクングニヤ熱に感染していたと発表した。国内で日本人の感染が確認されたのは初めてである。この女性は昨年11月中旬、スリランカで発熱し、現地でチクングニヤ熱かデング熱と診断された。女性はすでに症状は回復し、在住するスリランカに戻っている。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Proc Natl Acad Sci USA 2007; 104: 1965-1970	スクレイピー22L株に感染した神経芽細胞腫細胞およびFUクロイツフェルトヤコブ病原体に感染した視床下部GT細胞は直交配列で高密度な25nmウイルス様粒子を示した。この粒子は膜に囲まれた不完全結晶で、A型レトロウイルス粒子クラスターや異常PrP原線維とは別に存在し、形態学的にも異なっていた。またPrP抗体でラベルされず、ホルボールエステル処理で増加しなかったことから、プリオンではなかった。この粒子は後期PrP脳病変を誘発するTSE原因プリオンである可能性がある。
234	2007/03/27	61031	持田製薬	日本薬局方 注射用胎盤性性腺刺激ホルモン	日局 胎盤性性腺刺激ホルモン	ヒト(妊婦)尿	中国	有効成分	有	無	無	ウイルス感染	CBS News/ Healthwatch 2006 年8月22日	61030に同じ
												HIV	asahi.com 健康 2006年9月4日	61030に同じ
												HHV-8感染	N Engl J Med 2006; 355: 1331-1338	61030に同じ
												クロストリジウム感染	第55回日本感染症学会東日本地方会 総会 2006年10月 26-27日 016	61030に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	CDC 2006年11月29 日	61030に同じ
												ウエストナイル ウイルス	El Tribuno Salta 2006年12月27日	61030に同じ
												チクングニヤウ ウイルス感染	毎日新聞 2007年1 月24日 東京夕刊	61030に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Proc Natl Acad Sci USA 2007; 104: 1965-1970	61030に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用指嚮	感染症(PT)	出典	概要
235	2007/03/28	61032	伊藤ライフサイエンス	バルナバリンナトリウム	バルナバリンナトリウム	ブタ腸粘膜	アルゼンチン	有効成分	有	無	無	レンサ球菌感染	ProMED-mail20070223.0668	米国の科学者は北アメリカで初めて報告されたStreptococcus suis髄膜炎のヒト感染例を確認した。健康であった59歳の男性農業従事者が髄膜炎で入院し、S. suis感染と判明した。S. suisはブタで重病を起こすグラム陽性球菌であり、ブタを扱う職業の人は注意が必要である。保健当局はヒトからヒトへの感染のおそれはないとしている。
236	2007/03/28	61033	北里研究所	乾燥弱毒生風しんワクチン	ウサギ腎初代培養細胞	ウサギ腎臓	日本	製造工程	無	無	無			
237	2007/03/28	61034	日新製薬	塩化マンガン・硫酸亜鉛配合剤	コンドロイチン硫酸ナトリウム	ウシの気管	アメリカ合衆国、カナダ、ウルグアイ、アルゼンチン、オーストラリア、ニュージーランド	添加物	有	無	無	細菌感染	共同通信 2007年2月22日	千葉県船橋市立医療センターは22日、昨年2月に搬送され死亡した50歳代男性から、牛や羊などに高熱などの激しい症状を引き起こして死亡させる「気腫疽菌」が検出されたと発表した。この菌は土の中に多く生息するが、人への感染が確認されたのははじめてとのことである。
238	2007/03/28	61035	日新製薬	ダルテパリンナトリウム	ダルテパリンナトリウム	ブタの小腸	中国	有効成分	有	無	無	レンサ球菌感染	ProMED-mail20070223.0668	米国の科学者は北アメリカで初めて報告されたStreptococcus suis髄膜炎のヒト感染例を確認した。健康であった59歳の男性農業従事者が髄膜炎で入院し、S. suis感染と判明した。S. suisはブタで重病を起こすグラム陽性球菌であり、ブタを扱う職業の人は注意が必要である。保健当局はヒトからヒトへの感染のおそれはないとしている。
239	2007/03/28	61036	ZLBベリング	フィブリノゲン加第XIII因子	アプロチニン液	ウシ肺	ウルグアイ、ニュージーランド	有効成分	有	無	無	細菌感染	Epidemiol Infect 2006; 134: 1068-1073	Mycobacterium bovisはニュージーランドの野生動物や家畜を宿主とする。1995-2002年のヒト結核症例を疫学的、臨床検査学的に調べた結果、確定症例1997例中54例(2.7%)がM.bovisで、10万人当たり0.2人の割合であった。ヒトからの単離体23例中14例がウシ、シカ、オポッサム、フェレット、ブタ、ネコからの単離体と同一の制限酵素分析パターンを示した。ニュージーランドでは動物宿主からヒトへの伝播が低レベルで続いていることが示唆された。
240	2007/03/28	61037	ZLBベリング	①～③人血清アルブミン ④人血液凝固第XIII因子 ⑤⑥フィブリノゲン加第XIII因子	人血清アルブミン	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストラリア	①～③有効成分、 ④～⑥添加物	有	有	無	HHV-8感染	N Engl J Med 2006; 355: 1331-1338	2000年12月から2001年10月に輸血を受けたウガンダのKampalaの患者1811例のうち、輸血前にヒトヘルペスウイルス8型(HHV-8)血清陰性であった患者991例について追跡調査を行った。そのうち43%(425例)にHHV-8血清陽性血が輸血された。991例中41例にHHV-8セロコンバージョンが起こったが、セロコンバージョンのリスクは陽性血を輸血された患者の方が陰性血を輸血された患者より有意に高かった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文獻	症例	適正 検用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	Transfusion 2006; 46: 1352-1359	全血輸血により、サルfoamyウイルス(SFV)感染が起こるかをアカゲザルを用いて調べた。自然感染ザル2匹の全血を、各々、レトロウイルスを持たないサル2匹に輸血したところ、1匹のドナーからのレシピエントでは感染し、もう1匹のドナーからのレシピエントは感染しなかった。ヒトでのSFV輸血伝播の可能性が示された。
241	2007/03/29	61038	扶桑薬品工業	ヘパリンナトリウム	ヘパリンナトリウム	ブタの腸粘膜	米国、カナダ、中国	有効成分	有	無	無	サルモネラ	Eurosurveillance 2006; 11(8): 060817	2006年7月21日に南ラトビアの小さな村で屋外村民休養行事と関連する腸炎菌による胃腸炎の流行が起こり、7月22-25日まで続いた。聞き取り調査した107名の参加者の内49名が流行症例の評価基準を満たし(発病率46%)、検便の結果26検体中8例が腸炎菌陽性であった。レトロスペクティブコホート研究の結果、生卵で作ったフライドポーク料理が原因と考えられた。
												旋毛虫症	Vet Parasitol 2006; 140: 177-180	イタリアの地中海諸島Sardiniaで、初めて旋毛虫症が発生した。アウトブレイクは2005年に2つの村で起こり、同じブタから作った生のソーセージを食べたヒト11名が感染した。11名全員が旋毛虫症の症状を示し、摂食後48日以内に抗体陽転した。病原体はTrichinella britoviであった。
												E型肝炎	西日本新聞 2006年10月26日	北海道東部に住む50-70代の男女4人が2-3月、豚やイノシシの体内に存在するE型肝炎ウイルスに相次いで感染し発症、1人が重い劇症肝炎で3ヶ月以上入院していたことが25日、分った。同一飲食店や自宅で十分に加熱していない豚の内臓を食べたという。4人の血液からはいずれもHEVを検出。遺伝子解析の結果、塩基配列が一致した。2004年に北見市で見つかったものとはほぼ同じ塩基配列であった。
												サルモネラ	Eurosurveillance 2006; 11(11)	フランスで2005年8月から2006年3月の間に69例のSalmonella Manhattan感染が報告され、その内51例(74%)が南東部フランスからであった。聞き取り調査の結果、感染症例はポークソーセージと牛肉を食べた傾向が高かった。同時期に南東部フランスの肉製品からS. Manhattanが単離され、ヒトからの単離体とPFGEプロファイルで差がなかった。追跡調査により、ある食肉処理場でSalmonella spp.とS. Manhattanによる広範な汚染が明らかとなった。
												レンサ球菌感染	pigprogress.net 2007年2月21日	米国の科学者は北アメリカで初めて報告されたStreptococcus suis髄膜炎のヒト感染例を確認した。ニューヨークの健康であった59歳の男性農業従事者が髄膜炎で入院し、S. suis感染と判明した。患者の農場のブタからもS. suisが確認された。S. suisはブタで重病を起こすグラム陽性球菌であり、ブタを扱う職業の人は注意が必要である。保健当局はヒトからヒトへの感染のおそれはないとしている。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用精査	感染症(PT)	出典	概要
242	2007/03/29	61039	化学及血清療法研究所	フィブリノゲン加第ⅩⅢ因子	人フィブリノゲン	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	クロストリジウム感染	YOMIURI ONLINE (2007年2月23日 読売新聞)	千葉県船橋市立医療センターは22日、同県内の50歳代の男性が、主に牛の病気の原因とされる「気腫菌」に感染し、死亡したことを明らかにした。人への感染が報告されたのは世界初である。気腫菌は傷口などから動物の体内に入り、筋肉が壊死する「気腫」を発症させる。同センターは、「気腫菌は人には感染しないというのがこれまでの常識だった。詳しい感染経路を調べるのが今後の課題」としている。
243	2007/03/29	61040	化学及血清療法研究所	フィブリノゲン加第ⅩⅢ因子	人血液凝固第ⅩⅢ因子	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	クロストリジウム感染	YOMIURI ONLINE (2007年2月23日 読売新聞)	61039に同じ
244	2007/03/29	61041	化学及血清療法研究所	①フィブリノゲン加第ⅩⅢ因子 ②乾燥濃縮人活性化プロテインC ③トロンピン	トロンピン	ヒト血液	日本	①③有効成分、 ②製造工程	有	無	無	クロストリジウム感染	YOMIURI ONLINE (2007年2月23日 読売新聞)	61039に同じ
245	2007/03/29	61042	化学及血清療法研究所	①ボルヒール ②乾燥濃縮人活性化プロテインC ③乾燥濃縮人血液凝固第ⅩⅢ因子 ④、⑧乾燥スルホ化人免疫グロブリン ⑤、⑥、⑦、⑩、⑪人血清アルブミン ⑨乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	人血清アルブミン	ヒト血液	日本	⑤～⑦、 ⑩、⑪有効成分、 ①～④、 ⑧、⑨添加物	有	無	無	クロストリジウム感染	YOMIURI ONLINE (2007年2月23日 読売新聞)	61039に同じ
246	2007/03/29	61043	化学及血清療法研究所	フィブリノゲン加第ⅩⅢ因子	アプロチニン	ウシ肺臓	ウルグアイ	有効成分	有	無	無	ウイルス感染	CDC/MMWR 2007; 56(04): 73-76	2006年12月中旬にケニア保健省に発熱と全身出血と伴った原因不明の死亡例数例が北東部のGarissa地区から報告された。12月20日までに計11例の死亡例が報告された。患者19例中10例の血清からリフトバレー熱(RVF)ウイルスRNAまたはRVFウイルスに対するIgM抗体が検出された。黄色熱、エボラ、クリミア-コンゴ出血熱、デングウイルスには全ての血清検体が陰性であった。6検体からRVFウイルスが単離され、確定された。2007年1月25日現在、死亡118例を含む404症例が報告されている。
247	2007/03/29	61044	化学及血清療法研究所	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリアトキソイド 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン	カザミノ酸	ウシ乳	オーストラリア、ニューギニア	製造工程	有	無	無	ウイルス感染	CDC/MMWR 2007; 56(04): 73-76	61043に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文獻	症例	適正 使用 精査	感染症(PT)	出典	概要
248	2007/03/29	61045	化学及血清療法研究所	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリアトキソイド コレラワクチン 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン 破傷風トキソイド	スキムミルク	ウシ乳	アメリカ	製造工程	有	無	無	ウイルス感染	CDC/MMWR 2007; 56(04): 73-76	61043に同じ
249	2007/03/29	61046	化学及血清療法研究所	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド ワイル病治療血清 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 破傷風トキソイド	ポリペプトン	ウシ乳	中国、 ニュージー ランド	製造工程	有	無	無	ウイルス感染	CDC/MMWR 2007; 56(04): 73-76	61043に同じ
250	2007/03/29	61047	化学及血清療法研究所	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥ガスえそウマ抗毒素 ガスえそウマ抗毒素 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 破傷風トキソイド	肝臓	ウシ肝臓	オーストラ リア	製造工程	有	無	無	ウイルス感染	CDC/MMWR 2007; 56(04): 73-76	61043に同じ
251	2007/03/29	61048	化学及血清療法研究所	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリアトキソイド コレラワクチン 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥ガスえそウマ抗毒素 ガスえそウマ抗毒素 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 破傷風トキソイド	肉	ウシ肉	オーストラ リア	製造工程	有	無	無	ウイルス感染	CDC/MMWR 2007; 56(04): 73-76	61043に同じ
252	2007/03/29	61049	化学及血清療法研究所	コレラワクチン	ハートイン フュージョ ンアガー	ウシ乳・心臓		製造工程	有	無	無	ウイルス感染	CDC/MMWR 2007; 56(04): 73-76	61043に同じ
253	2007/03/29	61050	化学及血清療法研究所	コレラワクチン	ハートイン フュージョ ンブイオン	ウシ乳・心臓		製造工程	有	無	無	ウイルス感染	CDC/MMWR 2007; 56(04): 73-76	61043に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 精量	感染症(PT)	出典	概要
254	2007/03/29	61051	化学及血清療法研究所	①、③乾燥日本脳炎ワクチン ②乾燥弱毒生麻しんワクチン ④乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン ⑤乾燥弱毒生風しんワクチン ⑥乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン	乳糖	ウシ乳	ニュージーランド	①、③～ ⑥添加物 ②製造工程	有	無	無	ウイルス感染	CDC/MMWR 2007; 56(04): 73-76	61043に同じ
255	2007/03/29	61052	化学及血清療法研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン	胚初代培養細胞	ニワトリ	日本、米国、メキシコ	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザ	宮崎県農政水産部 平成19年1月13、16、18日 プレスリリース	平成19年1月12日、宮崎県宮崎郡清武町の肉用種鶏飼養農場において、飼養鶏からA型鳥インフルエンザウイルスと思われるウイルスが分離された。13日、動物衛生研究所での検査の結果、当該ウイルスがH5N1亜型のA型インフルエンザであることが確認され、防疫対応が決定された。18日、病原性判定試験の結果、強毒タイプのウイルスであることが判明した。
256	2007/03/29	61053	化学及血清療法研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン	トリプシン	ブタ臓臓	カナダ、米国	製造工程	無	無	無			
257	2007/03/29	61054	化学及血清療法研究所	乾燥ガスエソウマ抗毒素 ガスエソウマ抗毒素 乾燥ジフテリア抗毒素 乾燥ボツリヌス抗毒素	ウマ免疫グロブリン	ウマ血液	日本	有効成分	無	無	無			
258	2007/03/29	61055	化学及血清療法研究所	乾燥ガスエソウマ抗毒素 ガスエソウマ抗毒素 乾燥ボツリヌス抗毒素	クックドミート	ウシ心臓	米国、カナダ	製造工程	有	無	無	ウイルス感染	CDC/MMWR 2007; 56(04): 73-76	61043に同じ
259	2007/03/29	61056	化学及血清療法研究所	乾燥ガスエソウマ抗毒素 ガスエソウマ抗毒素 乾燥ボツリヌス抗毒素	クックドミート	ブタ胃	米国	製造工程	無	無	無			
260	2007/03/29	61057	化学及血清療法研究所	乾燥ガスエソウマ抗毒素 ガスエソウマ抗毒素	プロテオースペプトン	ウシ胃	米国	製造工程	有	無	無	ウイルス感染	CDC/MMWR 2007; 56(04): 73-76	61043に同じ
261	2007/03/29	61058	化学及血清療法研究所	乾燥ガスエソウマ抗毒素 ガスエソウマ抗毒素	プロテオースペプトン	ブタ胃	米国	製造工程	無	無	無			
262	2007/03/29	61059	化学及血清療法研究所	乾燥ボツリヌス抗毒素	肝臓	ウマ肝臓	日本	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
263	2007/03/29	61060	化学及血清療法研究所	乾燥ボツリヌス抗毒素	ブイオン	ブタ胃	ニュージーランド、オーストラリア、米国	製造工程	無	無	無			
264	2007/03/30	61061	日本赤十字社	(製造承認書に記載なし)	合成血	人血液	日本	有効成分	有	無	有	HIV	中日新聞 Chunichi Web Press 2006年9月4日	エイズウイルス(HIV)のうち、世界で感染が広がっている主流のHIV1型とは遺伝子タイプが異なる2型に日本人が初めて感染したことを、厚生労働省のエイズ研究班が確認したことが9月3日分かった。厚生労働省は、医療機関や保健所などが実施している検査で2型の感染を見逃さないよう、検査の徹底を求める通知を出した。HIV2型の感染が確認されたのは、過去に西アフリカで輸血を受けた経験がある男性である。同省は「滞在していた地域では2型が流行しており、現地での輸血が感染原因とみられる」としている。
												感染	Blood 2006; 108: Abstract #4144	0.2mM S-303 (アクリジン化合物) および20mM グルタチオン(GSH) を用いた改良S-303処理法を用い、RBC中の細菌およびウイルス不活化の有効性を評価した。輸血に関連するグラム陽性菌およびグラム陰性菌、Vesicular stomatitisウイルス、Adenovirus 5、HIVおよびウシウイルス性下痢ウイルス(HCVのモデル)のいずれも改良S-303処理により効果的に不活化された。
												梅毒	Lancet 2007; 369: 132-138	中国の性感染症サーベイランスシステム及び監視サイトネットワークからの症例報告データを収集し評価した。中国における報告された梅毒の全症例発生率は、1993年には100,000人あたり0.2例であったが、2005年には、第一期及び第二期梅毒だけで100,000人あたり5.7例であった。先天的な梅毒の発生率は、1991年には100,000例の出生児あたり0.01症例であったが、2005年には100,000例の出生児あたり19.68症例まで、年平均71.9%の割合で大きく増加した。
												マラリア	CDC/MMWR 2006; 55(37): 1013-1016	2006年9月19日、CDCは米国在住のグレートエグズーマ島渡航者向けの抗マラリア薬服用勧告を解除した。2006年5月～6月の間に合計19例のマラリア症例が確認されたが、3ヶ月間新規症例の報告がなかったためである。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												マラリア	AABB Weekly Report 2006年9月15日	2006年9月8日付けのKorea Timesによると、交通事故後に輸血を受け、その後マラリアと診断された患者が、疑わしい血液の流通を防ぐことができなかった韓国赤十字を批判している。韓国赤十字は状況を知りながら、何の行動も起こさず、その結果、不適切な血液製品が流通し続けたとのことである。輸血によるマラリア感染で既に1名の患者が死亡している。
												マラリア	ProMED-mail20061004.2843	中国東部の安徽省でマラリア感染が拡大している。地元保健当局によると、今年に入ってから2006年9月25日時点で17917例が報告されており、昨年と同時期と比較すると89.8%増加している。保健当局は緊急通告を出して、感染の監視を強化し、拡大防止のためにマラリア予防と治療に関する啓発を行うよう地元自治体に要請した。
												マラリア	Eurosurveillance 2006年11月16日	2006年8月にコルシカ島で三日熱マラリア1症例が診断された。フランス南東部出身の59歳男性で、2006年夏に南コルシカのポルトに滞在していた。患者はマラリア流行地域への渡航歴はなかった。マダガスカルに渡航歴のある三日熱マラリア患者が7月初めに同地区に滞在しており、コルシカのハマダラカによってP. vivaxの国内伝播が起こったことを示唆している。本症例は、この地域で報告されたマラリアの地域内伝播の1972年以来初の症例である。
												マラリア	Eurosurveillance weekly release 2007; 12(1): 070111	輸入感染症サーベイランスに関するヨーロッパネットワークへの報告数によると、2006年11月下旬以降、インド、ゴア州への渡航者において、熱帯熱マラリア患者が増加している。1月10日までに、ドイツで2例、デンマークで4例、スウェーデンで2例、計8例の患者が報告された。
												トリパノソーマ症	CDC/MMWR 2006; 55(29): 798-800	ロサンゼルスでの心臓移植患者2名で、臓器移植によるシャーガス病伝播が見られた。1例は拒絶反応による合併症で死亡し、もう1例は心不全で死亡した。両例ともドナーがTrypanosoma cruzi感染者であったことが明らかとなった。米国における固形臓器移植によるT. cruzi伝播としては4例目と5例目になる。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												トリパノソーマ症	Vox Sang 2006; 91(Suppl 3): 98	フランスでリスクのある献血者に対し、シャーガス病スクリーニング検査を行うこととなり、Bioelisa Chagas、Chagatek、Ortho T.cruzi ELISA Test System [®] 1、ELISA Cruzi の4種類のTrypanosoma cruzi ELISAキットの感受性、再現性、特異性を評価した。感受性に関しては4種類の検査法で正確に検出された。再現性は24コピーのS/CO値の平均の変動係数によって示され、各々、6.30%、9.30%、15.7%、22.40%だった。
												トリパノソーマ症	AABB Weekly Report 2006; 12(43): 1-2	FDAがシャーガス病の献血者スクリーニング検査試薬を初めて認可したのを受け、米国血液銀行協会(AABB)は、採血施設が検査導入とその期間を決定し、献血者と受血者のフォローアップのためのガイダンスを提供するのに役立つよう、協会公報#06-08を12月14日に発表した。具体的な勧告内容は、出荷停止、遡及調査、自己血輸血で繰り返し検査陽性となった場合の成分製剤出荷の認可、供血延期措置、通知、確認試験、献血者の医学的評価のための供血延期などの事項が盛り込まれている。
												チクングニヤウイルス感染	Eurosurveillance 2006; 11(8): 060810	2005年12月以降、チクングニヤウイルス感染のアウトブレイクがインドの8つの州で続いており、拡大するおそれがある。最も被害の大きい5つの州では896500例以上の疑い例が報告されている。北部の州からは1例も報告されていない。ヨーロッパの多数の国で輸入症例が報告されている。感染の拡大防止ならびに特異的な抗ウイルス薬とワクチンの開発が急務である。
												チクングニヤウイルス感染	毎日新聞 2007年1月24日	1月24日、厚生労働省はスリランカから帰国した30歳代の女性が、チクングニヤ熱に感染していたと発表した。国内で日本人の感染が確認されたのは初めてである。女性は2006年11月中旬、スリランカで発熱し、現地でチクングニヤ熱かデング熱と診断された。女性はすでに症状は回復し、在住するスリランカに戻っている。厚生省によると、チクングニヤ熱は発熱や関節炎、発疹などが特徴で、死亡率は極めて低い。蚊を介して感染し、人から人への感染はない。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												HHV-8感染	N Engl J Med 2006; 355: 1331-1338	2000年12月から2001年10月に輸血を受けたウガンダのKampalaの患者1811例のうち、輸血前にヒトヘルペスウイルス8型(HHV-8)血清陰性であった患者991例について追跡調査を行った。そのうち43%(425例)にHHV-8血清陽性血が輸血された。991例中41例にHHV-8セロコンバージョンが起こったが、セロコンバージョンのリスクは陽性血を輸血された患者の方が陰性血を輸血された患者より有意に高かった。
												鳥インフルエンザ	ProMED-mail20061201.3394	WHOは、H5N1鳥インフルエンザウイルスにより光を当て、パンデミック株への変異の検出を容易にするために、H5N1鳥インフルエンザのヒト症例調査のためのガイドラインを発表した。14ページのガイドラインは、患者の間診、周辺で他の症例を検索することによる接触歴の調査、ヒト-ヒト感染の何らかの徴候を発見するためのデータのふるいわけなど、各症例の徹底的な調査を求めている。ガイドラインでは、臨床検査の結果が出る前に疑い症例の調査を行うことを要請している。
												鳥インフルエンザ	Eurosurveillance 2006; 11(12): 061221	2006年11月29日時点でH5N1型トリインフルエンザウイルス感染患者258名がWHOに報告され、50カ国以上で鳥類での感染が確認されており、うち10カ国では鳥類がヒト患者発生の感染源となっている。EUでは、同ウイルスは家禽には感染定着しておらず、2006年春季に少なくとも15カ国で野鳥の感染が確認されたが、ヒト感染症例は発生していない。家禽の感染予防が成功し、感染は5件のみで迅速に制圧された。散发例の報告が続いていることから、生物学的安全確保対策と早期警報システムを堅持する必要がある。
												鳥インフルエンザ	ProMED-mail20070120.0260	2007年1月18日、農林水産省は、宮崎県の養鶏場で発生したトリインフルエンザは高病原性ウイルスによるものだったと明らかにした。同省は養鶏場で死亡した鶏から採取したウイルスのサンプルを検査して病原性が高いものであることを確認した。H5N1型ウイルスの流行は、宮崎県清武町の谷口鞆野場黒坂農場で発生し、3つある鶏舎のうち1つで3500羽の鶏が死亡した。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												パルボウイルス	Transfusion 2006; 46:1593-1600	パルボウイルスB19ジェノタイプ3流行地域であるガーナで、114組の成人供血者-小児受血者ペアにおける輸血によるB19の伝播および免疫学的特性について調べた。2例の供血がパルボウイルスB19DNAと特異的抗体を含有していたが、伝播は見られなかった。B19 IgG含有の全血がB19DNA陽性受血者14例に輸血されていたが、その内、輸血前にVP2に対する抗体が認められなかった10例ではウイルスが除去された。
												ウイルス感染	ProMED-mail20070106.0058	2006年12月23日、ケニアGarissaの公立病院に入院した患者複数の症例から、リフトバレー熱のヒトでのアウトブレイクが初めて確認された。IgM及びPCRにより確定診断された。同地区での発病率は、19/10万人で、最高値は最初に患者が見つかったShanta Abakの129/10万人である。2007年1月5日現在で188例に達し、うち68例が死亡した。2007年1月4日、ケニア北東部のIjara地区でリフトバレー熱の新規疑い例8例が発見された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ABC Newsletter 2006 Sep 1; 16	外科用器具には殺菌後も依然としてクロイツフェルトヤコブ病(CJD)が残存する可能性が明らかとなった。エジンバラ大学研究チームは、タンパク質による平均汚染量が器具1mm ² あたり0.2μgであり、ヒトへの感染に必要な量をかなり上回る数値であることを認めた。最大量は、扁桃腺(プリオンが分布することが知られている組織のひとつ)の切除に用いた器具で認められた。同チームは、保健省に対し、同チームが開発したガスプラズマ滅菌の広範な導入を推奨している。
												クロイツフェルト・ヤコブ病	Vox Sang 2006; 91(Suppl. 3): 68-69	米国で供血後に古典的CJDを発症した個人を特定し、受血者の追跡調査を行った。2006年2月までに、古典的CJDで死亡した供血者31名が試験に登録され、384名の受血者が特定された。追跡を行ったところ、古典的CJDが輸血を介して受血者に伝播したという証拠は示されなかった。本研究は、1995年に米国の大規模血液供給システムと疾病対策予防センター(CDC)により開始され、継続中である。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	古典的CJDの潜伏期間は38.5年であり、vCJDの潜伏期間も非常に長いことが示唆されている。また、未確認ではあるが恐らくかなりの数の血液ドナーが、欧州におけるBSE激増中にフランスで感染した可能性がある。これらのことから、FDAは1980年以降フランスで血液又は血液成分の輸血を受けた者からの供血を無期限に停止するという予防策の導入をガイダンス案として発表した。

ID	発起日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2006年7月21日	アイルランド輸血サービスは、CJDの病因となるプリオンを供血血液から除去するために開発された新しい装置を1年間使用した後、試用の中止を決定した。血液サービスは昨年、そのフィルター装置を購入したが、十分な効果が得られず、CJDプリオンは捕捉されずに通過し、供血中に混入する可能性があるためである。
												BSE	ABC Newsletter 2006年9月22日 16ページ	欧州協議会は2005年の反芻動物(有蹄動物)における伝達性海綿状脳症(TSE)のモニタリングと検査に関する報告書を発表した。TSE検査を行った1千万頭以上のウシのうち、陽性となったのは561頭のみであった。2005年の調査結果は陽性例が引き続き減少していることを示している。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 314: 133-136	慢性消耗病(CWD)非感染シカをCWD陽性のシカの唾液、血液または尿・糞に曝露させた。その結果、CWDを伝播しうる感染性プリオンが唾液および血液中に認められた。CWDはシカ科の動物に容易に伝播すると言える。プリオン感染では体液との接触に関する注意が払われるべきである。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vox Sanguinis 2006; 91(Suppl 3): 70	PRDT(Pathogen Removal and Diagnostics Technologies)は、全血、RBCまたは血漿存在下で、脳由来プリオンタンパク質およびTSE感染物と強く結合する高親和性リガンドを得るため、何百万もの化合物をスクリーニングした。その結果、PRDTのリード樹脂は赤血球存在下でも高濃度のTSE感染物を吸着し、低濃度の内因性TSE感染物を除去した。この樹脂を使用したMacoPharma P-Capt(TM)フィルターを用いることにより、輸血によるvCJD伝播リスクを軽減できる。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 368: 2061-2067	vCJDを発症した供血者の輸血を受けた患者が神経学的徴候を発現し、National Prion Clinicへ照会され、vCJDと診断された後、MRC PRION-1 trialに登録された。患者が死亡した際、剖検時に脳と扁桃腺の組織を得、免疫ブロットリング法および免疫組織化学検査により異常プリオンの存在を調べた。剖検により診断が確認され、扁桃腺のプリオン感染が示された。扁桃腺の生検は、BSEプリオンの1次感染患者と同様、医原的曝露を被った他の高リスク患者においても、早期の症状発現前診断を可能にする。

ID	受題日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用指値	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS ONE 2006; 1: e71	プリオン蛋白に高親和的、特異的に結合する吸着基質 Alico Prio Trapを開発し、ヒト、ウシ、ヒツジ、ヤギの乳汁中にPrPScの前駆体であるPrPCを同定することができた。PrPCの絶対量には種差があり、ヒツジの乳汁中で $\mu\text{g}/\text{ml}$ レンジ、ヒト乳汁中では ng/ml レンジであった。PrPCは、均質化し低温殺菌した市販ミルク中にも認められ、超高温処理を施しても内因性PrPC濃度はわずかに減少しただけであった。TSEに感染した動物の乳汁がPrPScの感染源となる可能性を示唆する。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail20070108.0081	英国保健省は2007年1月8日、vCJD患者数に関する最新情報を公表した。vCJD確定例における死亡患者112名、vCJD可能性例における死亡患者(神経病理学的に未確定)46名で、死亡患者総数は158名である。生存中のvCJD可能性患者は7名で、vCJD確定例または可能性例総数は165名である。2006年12月4日の月例統計以来、死亡患者総数には変化なく、確定例または可能性例総数は1名増加した。このデータは英国におけるvCJD流行は減少しつつあるとする見解に一致する。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Health Protection Report 1(3) 2007年1月19日	英国で4例目の輸血関連vCJD可能性例が診断された。この症例は供血後約17ヶ月でvCJDを発症したドナーからの赤血球輸血を受け、8年半後にvCJDを呈した。このドナーは3例目の輸血関連vCJD症例へのドナーでもある。4例目の症例はプリオン蛋白遺伝子のコドン129がメチオニンホモ体であった。まだ生存中である。
												狂犬病	ProMED-mail20061118.3303	2006年11月17日、京都府の保健所は、京都市の60歳代の男性がフィリピンで犬にかまれ、帰国後に狂犬病を発症して死亡したと発表した。厚労省によると、日本人が国内で狂犬病を発症したのは36年ぶりである。厚労省によると、男性はフィリピン滞在中の8月末に野良犬にかまれ、11月1日に帰国した。9日に風邪のような症状で京都市内の病院を受診した。その後、幻覚症状、水や風を怖がるなど狂犬病特有の症状を発症した。国立感染症研究所が調べたところ、男性の唾液から狂犬病ウイルスが検出された。
												ウイルス感染	ProMED-mail20061223.3593	日本でノロウイルスによる感染性胃腸炎が増加している。この疾患は従来食中毒とされてきたが、昨年の症例のうち生の貝類摂食に関連したものは15%しかなく、患者の吐瀉物や排泄物から、あるいはウイルスが手を介して食物や食器に付着することで間接的に感染することが多い。今シーズンのノロウイルス流行は主にヒト-ヒト感染によるものであり、変異による新たなウイルス株の流行と考えられる。2006年11月27日から12月3日までの間に、全国の約3000の医療機関から65,638人の感染患者が報告された。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウエストナイルウイルス	Transfusion 2006; 46: 2036-2037	ウエストナイルウイルス(WNV)が輸血感染するとの認識により、米国とカナダではウイルスRNAIに関する供血者の検査が迅速に導入された。最近の分析ではこの検査は費用対効果が低いと指摘されている。Custerらは、ミニプール検査と一部個別検査を組み合わせた通年の検査は、費用対効果は低いが血液安全のためには最善の選択であるとしている。一方Korvesらは、検査の削減を提唱している。検査の効率性を問う必要はあるが、WNVスクリーニングを行う他の方法がないかを検討することも重要である。
												ウエストナイルウイルス	ProMED-mail20061214.3510	2006年、米国におけるウエストナイルウイルス感染のヒト症例は43州から4052例が報告され、うち1396例で脳炎や髄膜炎を発症、死亡例は146例だった。また、ウマ、トリ、蚊からのウイルス検出が報告されている。
												A型肝炎	J Med Virol 2006; 78: 1398-1405	A型肝炎ウイルス(HAV)感染患者の血液および糞便中へのウイルス排泄期間および排泄量と、アラニンアミノトランスフェラーゼ(ALT)、疾患重症度、HAV遺伝子型との関連を調べた。27例の急性HAV患者でHAVは発症後81日間(中央値)便中に排泄され、半数で38日目でも多量なウイルスの排泄が続いた。ウイルス血症は検出されたが、定量化できなかった(中央値42日間)。疾患発症後10日間は、ALT値が高いほど血中ウイルス量が高かった。遺伝子型1aと1bの患者で、HAV排泄および黄疸の期間に有意差はなかった。
												B型肝炎	Vox Sang 2006; 91: 237-243	ドイツ赤十字血液センターの供血者10000名を、現行のPRISM®HBcおよび新規PRISM®Hbc core検査を用いたHBc抗体のスクリーニングを実施し、診断感度および特異性を調べた。両者とも約1.8%がHBc抗体陽性であることを示し、感度は同等であったが、特異性はPRISM® Hbc coreの方が有意に高かった。この検査が陽性であった188検体について、さらに7種類の抗HBc検査、2種類の抗HBs検査、1種類の抗Hbe検査、3種類のHBV NAT検査を行って、検査結果を比較した。
												B型肝炎	Transfusion 2006; 46: 2028-2029	2004年10月、神奈川県赤十字血液センターは輸血後HBV感染疑い症例の報告を受けた。供血当時の検査では50プールNAT陰性だったにも関わらず、凍結検体がHBV個別NAT陽性となった供血者を特定した。この供血者の凍結血液40検体について個別NATを行ったところ、陰性と陽性があった。合計6例の輸血後HBV感染が特定された。この供血者におけるHBV DNAの量は50コピー/mL未満から200コピー/mLの間で増減していた。供血前に個別NATを行ったとしても、全てのHBVキャリアを排除できないことが示された。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												B型肝炎C型 肝炎	Transfusion 2006; 46: 1997-2003	健康歴の問診によって供血延期となった供血者497名を、4つの米国赤十字血液センターで募集し、血液感染症の血清マーカーについて血液検体を検査した。その結果、ウイルス肝炎リスクおよび静注薬物使用歴に関する標準的な供血者用問診にて供血停止となった供血者は、供血停止とならなかった供血者よりも肝炎マーカー陽性率が高い場合が多かった。その他のマーカーおよび質問について有意な知見は認めなかった。
												C型肝炎	JAMA 2006; 296: 2005-2011	2004年10月15日にメリーランドで放射性医薬品注射剤を用いて心筋灌流試験を行った患者16名に発生した急性HCV感染について調べた。患者はある薬局で調整された1つのバイアルの注射剤を投与されていた。その薬局では、注射剤を調製する12時間前に、HCVおよびHIVに罹患した患者の血液の放射線標識白血球測定を行っていた。この患者から得られたHCVのシークエンスは、当該16症例の配列とほぼ同一であった(相同性97.8%~98.5%)。生物由来製剤を取り扱う放射性医薬品薬局は、適切な無菌操作を行うべきである。
265	2007/03/30	61062	バクスター	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	乾燥人血液凝固第Ⅷ因子	人血漿	米国	有効成分	有	有	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Health Protection Report 1(3) 2007年1月19日	英国で4例目の輸血関連vCJD可能症例が診断された。この症例は供血後約17ヶ月でvCJDを発症したドナーからの赤血球輸血を受け、8年半後にvCJDを呈した。このドナーは3例目の輸血関連vCJD症例へのドナーでもある。4例目の症例はプリオン蛋白遺伝子のコドン129がメチオニンホモ体であった。まだ生存中である。
266	2007/03/30	61063	バクスター	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	人血清アルブミン	人血漿	米国	添加物	有	有	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Health Protection Report 1(3) 2007年1月19日	61062に同じ
267	2007/03/30	61064	バクスター	ルリオクトコグ アルファ(遺伝子組換え)	ルリオクトコグ アルファ(遺伝子組換え)	遺伝子組換え チャイニーズ ハムスター卵 巣細胞株	該当なし	有効成分	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Health Protection Report 1(3) 2007年1月19日	61062に同じ
268	2007/03/30	61065	バクスター	乾燥人血液凝固因子抗体迂回活性複合体	乾燥人血液凝固因子抗体迂回活性複合体	人血漿	米国	有効成分	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Health Protection Report 1(3) 2007年1月19日	61062に同じ
269	2007/03/30	61066	バクスター	乾燥人血液凝固第Ⅷ因子複合体	乾燥人血液凝固第Ⅷ因子複合体	人血漿	米国	有効成分	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Health Protection Report 1(3) 2007年1月19日	61062に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
270	2007/03/30	61067	バクスター	乾燥人血液凝固第Ⅸ因子複合体	ヘパリンナトリウム	ブタ胃	中国	添加物	無	無	無			
271	2007/03/30	61068	日本赤十字社	人血清アルブミン	人血清アルブミン	人血液	日本	有効成分	有	無	無	HIV	中日新聞 Chunichi Web Press 2006年9月4日	エイズウイルス(HIV)のうち、世界で感染が広がっている主流のHIV1型とは遺伝子タイプが異なる2型に日本人が初めて感染したことを、厚生労働省のエイズ研究班が確認したことが9月3日分かった。厚生労働省は、医療機関や保健所などが実施している検査で2型の感染を見逃さないよう、検査の徹底を求める通知を出した。HIV2型の感染が確認されたのは、過去に西アフリカで輸血を受けた経験がある男性である。同省は「滞在していた地域では2型が流行しており、現地での輸血が感染原因とみられる」としている。
												チクングニヤウイルス感染	Eurosurveillance 2006; 11(8): 060810	2005年12月以降、チクングニヤウイルス感染のアウトブレイクがインドの8つの州で続いており、拡大するおそれがある。最も被害の大きい5つの州では896500例以上の疑い例が報告されている。北部の州からは1例も報告されていない。ヨーロッパの多数の国で輸入症例が報告されている。感染の拡大防止ならびに特異的な抗ウイルス薬とワクチンの開発が急務である。
												チクングニヤウイルス感染	毎日新聞 2007年1月24日	1月24日、厚生労働省はスリランカから帰国した30歳代の女性が、チクングニヤ熱に感染していたと発表した。国内で日本人の感染が確認されたのは初めてである。女性は2006年11月中旬、スリランカで発熱し、現地でチクングニヤ熱かデング熱と診断された。女性はすでに症状は回復し、在住するスリランカに戻っている。厚生労働省によると、チクングニヤ熱は発熱や関節炎、発疹などが特徴で、死亡率は極めて低い。蚊を介して感染し、人から人への感染はない。
												HHV-8感染	N Engl J Med 2006; 355: 1331-1338	2000年12月から2001年10月に輸血を受けたウガンダのKampalaの患者1811例のうち、輸血前にヒトヘルペスウイルス8型(HHV-8)血清陰性であった患者991例について追跡調査を行った。そのうち43%(425例)にHHV-8血清陽性血が輸血された。991例中41例にHHV-8セロコンバージョンが起こったが、セロコンバージョンのリスクは陽性血を輸血された患者の方が陰性血を輸血された患者より有意に高かった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	ProMED-mail20061201.3394	WHOは、H5N1鳥インフルエンザウイルスにより光を当て、パンデミック株への変異の検出を容易にするために、H5N1鳥インフルエンザのヒト症例調査のためのガイドラインを発表した。14ページのガイドラインは、患者の問診、周辺で他の症例を捜索することによる接触歴の調査、ヒト-ヒト感染の何らかの徴候を発見するためのデータのふるいわけなど、各症例の徹底的な調査を求めている。ガイドラインでは、臨床検査の結果が出る前に疑い症例の調査を行うことを要請している。
												鳥インフルエンザ	Eurosurveillance 2006; 11(12): 061221	2006年11月29日時点でH5N1型トリインフルエンザウイルス感染患者258名がWHOに報告され、50カ国以上で鳥類での感染が確認されており、うち10カ国では鳥類がヒト患者発生の感染源となっている。EUでは、同ウイルスは家禽には感染定着しておらず、2006年春季に少なくとも15カ国で野鳥の感染が確認されたが、ヒト感染症例は発生していない。家禽の感染予防が成功し、感染は5件のみで迅速に制圧された。散发例の報告が続いていることから、生物学的安全確保対策と早期警報システムを堅持する必要がある。
												鳥インフルエンザ	ProMED-mail20070120.0260	2007年1月18日、農林水産省は、宮崎県の養鶏場で発生したトリインフルエンザは高病原性ウイルスによるものだったと明らかにした。同省は養鶏場で死亡した鶏から採取したウイルスのサンプルを検査して病原性が高いものであることを確認した。H5N1型ウイルスの流行は、宮崎県清武町の谷口孵卵場黒坂農場で発生し、3つある鶏舎のうち1つで3500羽の鶏が死亡した。
												バルボウイルス	Transfusion 2006; 46:1593-1600	バルボウイルスB19ジエノタイプ3流行地域であるガーナで、114組の成人供血者-小児受血者ペアにおける輸血によるB19の伝播および免疫学的特性について調べた。2例の供血者がバルボウイルスB19DNAと特異的抗体を含有していたが、伝播は見られなかった。B19 IgG含有の全血がB19DNA陽性受血者14例に輸血されていたが、その内、輸血前にVP2に対する抗体が認められなかった10例ではウイルスが除去された。
												ウイルス感染	ProMED-mail20070106.0058	2006年12月23日、ケニアGarissaの公立病院に入院した患者複数の症例から、リフトバレー熱のヒトでのアウトブレイクが初めて確認された。IgM及びPCRにより確定診断された。同地区での発病率は、19/10万人で、最高値は最初に患者が見つかったShanta Abakの129/10万人である。2007年1月5日現在で188例に達し、うち68例が死亡した。2007年1月4日、ケニア北東部のJjara地区でリフトバレー熱の新規疑い例8例が発見された。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ABC Newsletter 2006 Sep 1; 16	外科用器具には殺菌後も依然としてクロイツフェルトヤコブ病(CJD)が残存する可能性が明らかとなった。エジンバラ大学研究チームは、タンパク質による平均汚染量が器具1mm ² あたり0.2μgであり、ヒトへの感染に必要な量をかなり上回る数値であることを認めた。最大量は、扁桃腺(プリオンが分布することが知られている組織のひとつ)の切除に用いた器具で認められた。同チームは、保健省に対し、同チームが開発したガスプラズマ滅菌の広範な導入を推奨している。
												クロイツフェルト・ヤコブ病	Vox Sang 2006; 91(Suppl. 3): 68-69	米国で供血後に古典的CJDを発症した個人を特定し、受血者の追跡調査を行った。2006年2月までに、古典的CJDで死亡した供血者31名が試験に登録され、394名の受血者が特定された。追跡を行ったところ、古典的CJDが輸血を介して受血者に伝播したという証拠は示されなかった。本研究は、1995年に米国の大規模血液供給システムと疾病対策予防センター(CDC)により開始され、継続中である。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Guidance for Industry (DRAFT GUIDANCE) FDA/CBER August 2006	古典的CJDの潜伏期間は38.5年であり、vCJDの潜伏期間も非常に長いことが示唆されている。また、未確認ではあるが恐らくかなりの数の血液ドナーが、欧州におけるBSE激増中にフランスで感染した可能性がある。これらのことから、FDAは1980年以降フランスで血液又は血液成分の輸血を受けた者からの供血を無期限に停止するという予防策の導入をガイダンス案として発表した。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2006年7月21日	アイルランド輸血サービスは、CJDの病因となるプリオンを供血血液から除去するために開発された新しい装置を1年間使用した後、試用の中止を決定した。血液サービスは昨年、そのフィルター装置を購入したが、十分な効果が得られず、CJDプリオンは捕捉されずに通過し、供血中に混入する可能性があるためである。
												BSE	ABC Newsletter 2006年9月22日 16ページ	欧州協議会は2005年の反芻動物(有蹄動物)における伝達性海綿状脳症(TSE)のモニタリングと検査に関する報告書を発表した。TSE検査を行った1千万頭以上のウシのうち、陽性となったのは561頭のみであった。2005年の調査結果は陽性例が引き続き減少していることを示している。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2006; 314: 133-136	慢性消耗病(CWD)非感染シカをCWD陽性のシカの唾液・血液または尿・糞に曝露させた。その結果、CWDを伝播しうる感染性プリオンが唾液および血液中に認められた。CWDはシカ科の動物に容易に伝播すると言える。プリオン感染では体液との接触に関する注意が払われるべきである。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vox Sanguinis 2006; 91(Suppl 3): 70	PRDT(Pathogen Removal and Diagnostics Technologies)は、全血、RBCまたは血漿存在下で、脳由来プリオンタンパク質およびTSE感染物と強く結合する高親和性リガンドを得るため、何百万もの化合物をスクリーニングした。その結果、PRDTのリード樹脂は赤血球存在下でも高濃度のTSE感染物を吸着し、低濃度の内因性TSE感染物を除去した。この樹脂を使用したMacoPharma P-Capt(TM)フィルターを用いることにより、輸血によるvCJD伝播リスクを軽減できる。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2006; 368: 2061-2067	vCJDを発症した供血者の輸血を受けた患者が神経学的徴候を発現し、National Prion Clinicへ照会され、vCJDと診断された後、MRC PRION-1 trialに登録された。患者が死亡した際、剖検時に脳と扁桃腺の組織を得、免疫ブロッティング法および免疫組織化学検査により異常プリオンの存在を調べた。剖検により診断が確認され、扁桃腺のプリオン感染が示された。扁桃腺の生検は、BSEプリオンの1次感染患者と同様、医原的曝露を被った他の高リスク患者においても、早期の症状発現前診断を可能にする。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS ONE 2006; 1: e71	プリオン蛋白に高親和的、特異的に結合する吸着基質Alicon Prio Trapを開発し、ヒト、ウシ、ヒツジ、ヤギの乳汁中にPrPScの前駆体であるPrPCを同定することができた。PrPCの絶対量には種差があり、ヒツジの乳汁中で μ g/レンジ、ヒト乳汁中ではng/レンジであった。PrPCは、均質化し低温殺菌した市販ミルク中にも認められ、超高温処理を施しても内因性PrPC濃度はわずかに減少しただけであった。TSEに感染した動物の乳汁がPrPScの感染源となる可能性を示唆する。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail20070108.0081	英国保健省は2007年1月8日、CJD患者数に関する最新情報を公表した。vCJD確定例における死亡患者112名、vCJD可能性例における死亡患者(神経病理学的に未確定)46名で、死亡患者総数は158名である。生存中のvCJD可能性患者は7名で、vCJD確定例または可能性例総数は165名である。2006年12月4日の月例統計以来、死亡患者総数には変化なく、確定例または可能性例総数は1名増加した。このデータは英国におけるvCJD流行は減少しつつあるとする見解に一致する。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ABC Newsletter 2006年12月15日 5-6ページ	米国で製造された血漿由来の第Ⅷ因子製剤による患者へのvCJD病原体伝播のリスクは、極めて低いと見られる。生物製剤評価調査センター(CBER)のSteven Anderson博士は、「しかし、リスクはゼロではない」と伝達性海綿状脳症(TSE)諮問委員会の本日の会合で話した。CBERは、2005年10月31日の委員会で提示されたコンピュータモデルと仮説に基づいたリスク分析案の概要を示した。重要度解析では、リスクを決定する主要な要素は、製造工程におけるvCJD感染因子の低減である。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Health Protection Report 1(3) 2007年1月19日	英国で4例目の輸血関連vCJD可能性例が診断された。この症例は供血後約17ヶ月でvCJDを発症したドナーからの赤血球輸血を受け、8年半後にvCJDを呈した。このドナーは3例目の輸血関連vCJD症例へのドナーでもある。4例目の症例はプリオン蛋白遺伝子のコドン129がメチオニンホモ体であった。まだ生存中である。
												狂犬病	ProMED-mail20061118.3303	2006年11月17日、京都府の保健所は、京都市の60歳代の男性がフィリピンで犬にかまれ、帰国後に狂犬病を発症して死亡したと発表した。厚労省によると、日本人が国内で狂犬病を発症したのは36年ぶりである。厚労省によると、男性はフィリピン滞在中の8月末に野良犬にかまれ、11月1日に帰国した。9日に風邪のような症状で京都市内の病院を受診した。その後、幻覚症状、水や風を怖がるなど狂犬病特有の症状を発症した。国立感染症研究所が調べたところ、男性の唾液から狂犬病ウイルスが検出された。
												ウイルス感染	ProMED-mail20061223.3593	日本でノロウイルスによる感染性胃腸炎が増加している。この疾患は従来食中毒とされてきたが、昨年の症例のうち生の貝類摂食に関連したものは15%しかなく、患者の吐瀉物や排泄物から、あるいはウイルスが手を介して食物や食器に付着することで間接的に感染することが多い。今シーズンのノロウイルス流行は主にヒト-ヒト感染によるものであり、変異による新たなウイルス株の流行と考えられる。2006年11月27日から12月3日までの間に、全国の約3000の医療機関から65,638人の感染患者が報告された。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文獻	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウエストナイルウイルス	Transfusion 2006; 46: 2036-2037	ウエストナイルウイルス(WNV)が輸血感染するとの認識により、米国とカナダではウイルスRNAに関する供血者の検査が迅速に導入された。最近の分析ではこの検査は費用対効果が低いと指摘されている。Custerらは、ミニプール検査と一部個別検査を組み合わせた通年の検査は、費用対効果は低い血液安全のためには最善の選択であるとしている。一方Korvesらは、検査の削減を提唱している。検査の効率性を問う必要はあるが、WNVスクリーニングを行う他の方法がないかを検討することも重要である。
												ウエストナイルウイルス	ProMED-mail20061214.3510	2006年、米国におけるウエストナイルウイルス感染のヒト症例は43州から4052例が報告され、うち1396例で脳炎や髄膜炎を発症、死亡例は148例だった。また、ウマ、トリ、蚊からのウイルス検出が報告されている。
												A型肝炎	J Med Virol 2006; 78: 1398-1405	A型肝炎ウイルス(HAV)感染患者の血液および糞便中へのウイルス排泄期間および排泄量と、アラニアミトランスフェラーゼ(ALT)、疾患重症度、HAV遺伝子型との関連を調べた。27例の急性HAV患者でHAVは発症後81日間(中央値)便中に排泄され、半数で36日目でも多量なウイルスの排泄が続いた。ウイルス血症は検出されたが、定量化できなかった(中央値42日間)。疾患発症後10日間は、ALT値が高いほど血中ウイルス量が高かった。遺伝子型1aと1bの患者で、HAV排泄および黄疸の期間に有意差はなかった。
												B型肝炎	Vox Sang 2006; 91: 237-243	ドイツ赤十字血液センターの供血者10000名を、現行のPRISM®HBcおよび新規PRISM®HbcCore検査を用いたHBc抗体のスクリーニングを実施し、診断感度および特異性を調べた。両者とも約1.8%がHBc抗体陽性であることを示し、感度は同等であったが、特異性はPRISM®HbcCoreの方が有意に高かった。この検査が陽性であった188検体について、さらに7種類の抗HBc検査、2種類の抗HBs検査、1種類の抗Hbe検査、3種類のHBV NAT検査を行った。検査結果を比較した。
												B型肝炎	Transfusion 2006; 46: 2028-2029	2004年10月、神奈川県赤十字血液センターは輸血後HBV感染疑い症例の報告を受けた。供血当時の検査では50プールNAT陰性だったにも関わらず、凍結検体がHBV個別NAT陽性となった供血者を特定した。この供血者の凍結血液40検体について個別NATを行ったところ、陰性と陽性があった。合計6例の輸血後HBV感染が特定された。この供血者におけるHBV DNAの量は50コピー/mL未満から200コピー/mLの間で増減していた。供血前に個別NATを行ったとしても、全てのHBVキャリアを排除できないことが示された。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												B型肝炎C型肝炎	Transfusion 2006; 46: 1997-2003	健康歴の間診によって供血延期となった供血者497名を、4つの米国赤十字血液センターで募集し、血液感染症の血清マーカーについて血液検体を検査した。その結果、ウイルス肝炎リスクおよび静注薬物使用歴に関する標準的な供血者用問診にて供血停止となった供血者は、供血停止とならなかった供血者よりも肝炎マーカー陽性率が高い場合が多かった。その他のマーカーおよび質問について有意な知見は認めなかった。
												C型肝炎	JAMA 2006; 296: 2005-2011	2004年10月15日にメリーランドで放射性医薬品注射剤を用いて心筋灌流試験を行った患者16名に発生した急性HCV感染について調べた。患者はある薬局で調整された1つのバイアルの注射剤を投与されていた。その薬局では、注射剤を調製する12時間前に、HCVおよびHIVに罹患した患者の血液の放射線標識白血球測定を行っていた。この患者から得られたHCVのシークエンスは、当該16症例の配列とほぼ同一であった(相同性97.8%~98.5%)。生物由来製剤を取り扱う放射性医薬品薬局は、適切な無菌操作を行うべきである。

